徳川實紀資料

共十二

特別
リ5
3072
9

法令雑録

一 将軍家光公御上洛之時洛中え銀五千貫目被下候御目録

上京町代

五百六拾壱貫百五拾八匁弐分九リン
町数百五拾三町 此人数四千五百六拾弐人 四郎三郎組

百六拾五貫五百七拾目
町数五拾五町 同 千弐百弐拾八人 同 清兵衛組

五百三拾六貫四百八拾八匁四分六リン九リン
町数百七拾六町 同 三千九百七拾九人 同 生道組

七百弐拾四貫五百七拾壱分四リン
町数百拾八町 同 五千三百七拾弐人 同 新九郎組

百五拾弐貫八百九拾六分八リン
町数四拾三町 同 五百三拾四人 同 清三郎組

弐百貫七百六拾六匁三分八リン
町数六拾六町 同 千四百八拾九人 同 長兵衛組

七拾四貫七百七拾三分壱匁九リン

四郎左衛門 久三郎組 清三郎

3072
9

町数三拾壱町　同　五百六拾弐人
八拾九貫五百弐拾六匁四分五りと
町数弐拾九町　同　六百六拾四人　同　又右衛門組
六百四拾貫六百八拾四匁七分五りと　下京　[illegible]組
町数百弐拾五町　同　四千八百弐拾六人　同
弐百七拾貫七百六拾弐匁六分三りと　七右衛門組
町数百六拾四町　同　弐千八人　同　[illegible]組
千弐百七拾八貫三百拾八匁七分四りと
町数二百弐拾五町　同　九千四百八拾一人　同　小河東　仁右衛門組
百弐拾四貫七百八拾六匁八分弐りと
町数四拾九町　同　九百弐拾七人
百五拾八貫八百五拾五匁九分　同　下京六条西　五三郎組
町数八拾七町　同　千弐百六拾弐人　東　清三郎組

銀高合五千貫目
町数合千四百六拾八町
家数合三万七千八拾四軒

寛永十一年戌閏七月
奉行　小堀遠江守
五味金右衛門
但壱軒ニ百拾四匁八分余也

御当家御判書御朱印御拝領物　天和四年子ノ年御改

一　権現様御判書
一　同御自筆御消息
一　同黄金弐拾枚御馬壱疋之
一　同御時服弐拾御書弐通
一　同御書壱通御具足甲
一　同御刀壱腰
一　同御黒印三通
一　同御太刀守家御脇差三拾本
一　同御具足壱領御羽織
一　御朱印壱通
一　御役御免一之宛

近江　木村孫左衛門
万年長十郎
杉岡源太夫
多賀尾四郎兵衛
木村源之介
中井正水
木村孫太郎
年寄七百郎
以上

一 御書一通御包之紙　京二條高倉西入釜座町　松屋庄大夫

一 御書　同衣棚丸太町下ル町　吉田安兵衛

一 明智光秀御書　山城八幡社家　中村但馬

一 御書　京衣棚丸太町上ル町　三宅京之亮

一 御書二通　同西陣新町通寺之内上ル町住居仁右衛門店浪人　石川多忠

一 御黒印御羽織　大津三井寺　長倉主丸

一 御書三通　山科辻子奥村　三宅安井御兵衛

一 御割札之御朱印　河州久宝寺村　庄屋源右衛門

一 同断　摂州河辺郡御願塚村　知代織田勘兵衛（かた女）

一 同断　近江伊田村

一 御書一通　摂州多田郡下村

一 割札之御朱印　黒門下立売下ル　町代清兵衛

一 同一通御添状一通　諸浪人　河村弥三兵衛

一 御書写　浪人　石川茂兵衛

一 御書　同之上　三雲之植

一 御朱印写　大津永町丹波屋五兵衛後家　半平

一 同　茨屋松屋町　津田源兵衛

一 御書　高橋カキヤ町　象屋岩之助

一 御朱印　寺町六角辰巳町　米屋新兵衛

一 御黒印二通　六角三条　三元長兵衛　新平

一 御朱印　極楽町中町門　丸屋喜兵衛

一 割札之御朱印　江州八幡　庄屋六兵衛

一 同断　江州東浅井郡田村　竹内仙右衛門　藤堂伊兵衛

一 御書五通　江州蒲浦　叡寺

一 （佐野様御書二通 / 白河様御同通）　飯山　新院

一 右御所様御書写通り　御　長寺

一 同御書三通写　同　某

一 桂現様御夜具
台徳院様御鉄　鉄茶宰相殿御書
一 桂現様御条帋二通
御黒帋一通　宇治
一 台徳院様御条帋弐通
一 台徳院様御条帋　馬丸通口深草兵衛
一 門御書　山崎八幡社家
一 門所　西園左門村
一 門御条帋　寺町桂松町
一 門御三朋子　西洞院差屋町
一 御陳羽織　馬背町
一 御条帋　上立賣家町西入町
一 御書　宇治
一 門所
一 台徳院様御假掛一鉄　仏光寺通条屋町
一 大御院様御寺具　新左衛門町

片山之内
上杉弁房
門人
伊藤原新八
津田伊之清
左門半之清
弓師治大馬
上山立宗定
末吉孫九郎
新屋宗山去
上杉味卜
上杉牛加
山杉屋十九馬
甲斐左入

一 台徳院様御条帋　清
一 桂現様御鉄拘御威状　一条屋本高如土町
一 同御具足甲　在府下立賣上町
一 御基盤基筒
一 御書御頭巾御腰拘　六条道場内
一 桂現様御条帋一通
台徳院様御書一通　馬丸横小町
一 馬御所様御書一通宛　宇治
一 桂現様御書
台徳院様御条帋

浪人
河村与之馬
鉄瓶御七
浪屋源之清
大同人
宮田中務
田中道全
永井貞甫
今井七郎之丞

一 例年二月二日江戸年始御礼御白書院法次之男御所様子爾府
御通り如何御祝儀之事御祝儀之事御年始御周見御祝儀江戸之
年号御中性御当所内有江戸惣町人茂藤之上京下京大坂

堺奈良 伏見之書 金座 銀座 朱座 年号 木炭 大黒 七太郎
常是 五ヶ所 糸割府 大津 [illegible] 七條 釋師 [illegible]
御禮 [illegible]

御酒 弐拾入 拾樽 廣平 百把
扇子 五本入 一箱 廣平 三把
廣平同 三拾反 大坂後 [illegible] 弐反
同 同
緋縮緬 拾五匁 白紗後 拾五匁
白紗後 弐巻
同 [illegible] 弐拾反
同 [illegible] 弐反

江戸 [illegible] 中
同 三年号
上糸 [illegible] 中
同 年号 一人
下糸 [illegible] 中
同 年号 一人
大坂 [illegible] 中
同 年号 一人
堺 [illegible] 中
同 年号 一人

晒布 弐拾疋
桃色縮 五反
色羽二重 拾疋
白紗後 三巻
白縮子 弐拾[illegible]
右年号 [illegible] 八 京 [illegible] 人 大坂 [illegible] 人 堺 [illegible] 人

奈良 [illegible] 年号 弐人
伏見 [illegible] 年号 弐人
[illegible] 惣中
同 年号 三人
糸割府 年号
七條 [illegible] 人
金座
銀座
七條 年号
朱座 年号
釋師 [illegible]
[illegible]

白紗後 百巻 燃燭 弐[illegible] 紗糧 [illegible] 二[illegible]
朱 百反 扇子 一箱
香具 秤 一挺
油煙 墨 [illegible] 挺

一御評定所御寄合始四月十二日御当番寺社御奉行町奉行大
目付并御勘定頭石奉行町奉行御勘定奉行諸
役人組頭并同心番頭外ニ京大坂伏見奈良堺山田初
寄合之節御評定所擬之岩坂瀬可為候

定

一寄合　毎月二日　十一日　廿一日
内寄合　四日　十二日　廿五日
公儀之御用有之ハ為延引事

一寄合之節評定所役出座御用掛衆外可通之事
一評定所之外役人之外一切不可出入勿論者作法可申付事
一公事人并其外之者一人も入不申候ハ可停止之事
一公事訴訟之者並召出候御出座之上ニて刀脇指可為帯之事
一公事人組頭親類縁者之外誘引ニ付而評定所不可
来之事
一惣而公事人江戸之外之者ハ宿之名主を召連可罷出之事

日之限過候ハ其沙汰ニ不及して不行届之者ハ急度可申付事
一公事人自分不届有之候ハ其沙汰ニ不及之事
一公事人裁許以後其裁許之役人裁許相背候ハ可為曲事
一公事毎日之寄合之日限者寄合之日ニ付可申上之事
一諸之出入致　之事
一役人之宅ニ而公事訴訟評定所ニて可被承之旨申渡候ハ
於評定所可相済之事
一右之外として評定所日数之内ニ日限相究ニ付而者ハ
可致之事
一裏判并日限之儀を申達之外ハ何事之儀ニて不可申之事
一右之条々急度可相守者也
延宝九年三月十二日

一 松平丹後守より松平筑前守え御順番ニ付御奉書ニ而被仰渡
今年当所御番所松平筑前守え被仰付候 然ル上者
其元之儀者御番所之儀ハ其方ニも不相替大切ニ候条
大目付衆え被申渡候而 萬事御奉行え得御差図候可

月日
老中連判
松平丹後守殿

一 阿蘭陀人御目見之節御献上物之内大猪口 出府ニ付御順番之面々
加比丹ハ時服三拾通頂戴ニ付而拝領物大猪口ニ而被下候
右加比丹江被仰渡

右之

一 阿蘭陀人ハ御代々日本商売仕候ニ付毎年来朝之者共ニ候
相守候 然処先年より南蛮切支丹宗門之通用不仕候段堅ク申付
置候処其已来も宗門之儀相止候段相改候より日本通用一切
不仕候処宗門之者共不参様ニ可申付候

一 唐人共日本商売渡海仕候者ニおゐてハ切支丹宗門之儀ニ付
下知之者共ニ至迄 尤唐人共南蛮人宗門之者ニ而も新規之者ハ大和ニ而
渡海之節より少しも不埒之儀無之様堅相守可申候事

一 日本渡海之唐船不残宗門之儀阿蘭陀共同前内奥南蛮之者入合
国之者ニ而候南蛮人通用不仕候共出合候国相知候ハゝ右之趣堅可申付 所々
然と異国之事紀之毎年至出帆之加比丹も得其意可申上候事
琉球国之日本渡り候儀ハ格別ニ候 何れも見分候上南蛮不仕筈

右之事

一 毎年上京下京年寄江戸年始御礼ニ参候ニ付送迎上下京より
出候ニ付
拝領銀人数同前外拝領同前献上物并送迎
御廣間ニ而之拝領 後段之拝領

右同断

上京年寄
同年寄
同下京年寄
同年寄

又九貫五百目余ハ
上下京年寄五人町代四人造市并宮ノ御留中諸造ノ用

又三貫五百目余ハ
町代共御役儀ニ付在世之小当之所切米毛貫三百目平モ有ハ
年中町方用事ニ付名分筆ニ付人用之也

合弐拾八貫目平

右割合之儀　極寿御屋地六町ヨリ并六條東西之境内
壬ノ寺社門前之境内分除之右東分勤者家之軒数之割付
壱軒役ニ付七八分より壱分五六分迄之所集ノ壱所之格式有之
出銀不同之也

一六角寺七瞳橦之事
四京町中分瞳つきハ者強限出之此所ニ京都町中ニ限之瞳つきハ場
所無之故也と

一洛中地子之事
八百拾七町者地子御免許也　明智光秀免之
又八拾四町者地三風年貢出之　云伝ハ多り
合千六百三町也　此外ニ方内地雑色支配
皆年貢地

一洛市町続之町并左郷雑色支配
町数五拾弐町　村数六拾四ケ村　五十嵐市郷之内
同　三拾九町　同　四拾六ケ村　藤郷七郷之内
同　三拾五町　同　九拾五ケ村　松村三郷九郷之内
同　八拾五町　同　百六拾八ケ村　松尾佐之郷之内
右雑色支配之方角者室町四条十字街より分ル
乾方四十嵐　艮方藤田　坤方松村　巽方松尾

一雑式知行御条市并祇園寄地之口米

山城國西院之内七拾七石洛中所之八拾石
都合百五拾七石之事如前之一四之知行者也
元和之
九月三日御朱印
雜色中ニ

右之 台德院様御朱印此外 信長公秀吉公御朱印有之由
一 雜色知行往古ハ京中地子銭ニ而山ニ京之明智光秀洛中地子
免許ニ故秀吉公之所為代り地西院村之七拾七石ニ而ニ有之也
台德院様御代八拾石ニ而ニ
三百五拾七石 八拾石ハ現朱 七拾石ハ六ツ五ツ之定免
山城國 西院村 壬生村 五条川原田
九条村 東塩小路
二口合百九拾六石六斗四升五合

右之内配分
米四拾四石六斗七升九合五ツ
内拾八石五斗五升七合地之口
米八石
内三石地之口
米八石六斗五升
内四石六斗五升地之口
米弐拾七石八斗六升弐合五ツ
内五石九斗地之口
米六石三斗七升
内五石三斗七升地之口
米七石六斗三升五合
内四石五斗三升五合地之口
米三拾三石三斗八升四合五ツ
内八石九斗弐合地之口
米七石弐斗四升
内五石四斗弐升地之口

五十五風市之宿
中井十九郎
黒川右馬
萩野七郎右馬
稲田孫右馬
湯浅間右馬
松村三郎左馬
永田五郎馬

米七石三斗一升六合
内四石六斗六升 家地ニ白
米弐拾七石弐斗七升九合
内四石八斗六升七合 地ニ白
米六石
内壱石 地ニ白
米拾弐石弐斗弐升九合
内八石七升九合 地ニ白

小濱九兵衛
松尾作之進
西村與左衛門
沢 与兵衛

一 洛中上京年行事町と云町一七拾町有り右之外より此町之用人半夫
之者ハ家役殺免之事之通ニ可致様ニ候而罷成人足ハ随而申
此七拾町 六組也 是謂
年寄方 善方 三条方 六角方
呂親方 寺社町方

一 上之家役之中遣ニ人小家ニ人宛取置四人
太子組年行事町々一組ニ中遣弐人宛之切米銀外ニ一年ニ三百目
宛也雖然遣中寄之小者代銀之儀は洛中洛外之町家役ニ而
被仰付候也

一 能登当所之者役雑色外之事ニ者有之弐人宛之帯刀之者十八人
松村等八人此外有之弐人外之様者方ハ京都ニ而人有之事ニ弐拾弐
都合者有り此外之者ニ而当国傳人雑色又祇園社家之事ニ而雑色役不罷
之者之二階之時免ささハ大弐拾弐都之人有之事ニ候也

一 洛中家賣買之時之方内町代年寄五人組之又家主ニ而仁度ニ而人
宛賣券状ニ加判致候而其之賣買之金子之壱分宛役料として買主より
町代并雑色ハ元禄十三年辰巳月より始ル但之此四人ハ上京二人下京二人
年寄之者定之加判仕候也

一 御用所在京中洛中洛外之巡見之節町代壱人宛御供仕候是ハ
元禄十二年卯年より始ル但元禄十四年巳九月より洛中洛外共ニ出ル

一 切支丹御制禁之札
奉行所より建候高札
山城遠江丹波之内
出口持高役

一 用水之札　拾八枚
一 忠孝之札　弐拾一枚
一 傳馬札　弐枚
一 毒呆札　弐拾一枚
一 捨弓札　弐百拾弐枚
一 鴨川筋　三拾弐枚
一 土塔藪弓張川筋札　弐拾六枚
一 所々弓札　七枚

丹波 近江
城 近江内一藪、三條橋
同所
同所
城 近江丹波

洛中洛外牛車之数　牛四百七拾也　車三百六拾三輛

三條組　牛数四拾九也　車数四拾六輛
四條組　〃　百三拾六也　〃　三拾弐輛
東寺　〃　弐拾也　〃　弐拾輛
上弓相　〃　六拾也　〃　六拾輛
下弓相　〃　六拾弐也　〃　六拾弐輛

久我村塔之村　〃　拾弐也　〃　拾弐輛
横大路村　〃　四拾六也　〃　四拾六輛
下滋織川端村　〃　四拾六也　〃　四拾六輛
東九条村　〃　弐拾弐也　〃　弐拾弐輛
竹田村　〃　拾八也　〃　拾八輛
芹川村　〃　五也　〃　五輛

一 洛中弓数百足弓持六拾四人
一 洛中洛外質屋六百弐拾八軒
一 洛中公儀橋　大小七拾弐ヶ所
一 洛中洛外浪人　兼常刀之者之疏十三辰年改
居住浪人　百三拾五人　三井弓山門鋪居住五人
一 洛中鉄炮之事　本所所之改分堂上鎖除之
用心鉄炮　弐挺　取之鉄炮百四拾五挺
猟師同　拾一挺　賣買同　百弐挺

五ヶ国 近江 丹波 播磨 山城 河内ニ有之 惣郷数
凡八千余有り
右者元禄二年ニ而 伊奈半左衛門ニ被仰付 江戸へ引越

一 洛中洛外御免許 家質目録一札 巳年改
洛外御免許 洛北鹿ヶ谷御所ノ外御免ニ而町家ハ寺宿
御免有之

一 京都支配領 御朱印高
大和 摂津 河内 和泉 丹波 近江 播磨 七ヶ国
右之国々御朱印高合五万九千百九拾石余

一 大津之町数百町 元禄十三年改
人数壱万七千六百九拾弐人
洛大名抱ニ而寺社屋敷弐拾ヶ所
船数弐百六拾艘 内 九百丹 三百四拾艘 / 丸子舟三百拾艘
家数六千拾壱軒 寺院家分
神社拾五ヶ所
寺数百之 寺院六拾一ヶ寺

一 御運上銀八貫八百弐拾目
大津之船数千七百四拾艘ハ田地ゟ上ル 但運上銀之内 船ニ運上之覚ゟ上ル
内六拾七艘ハ観音丹 小船弐拾九艘ハ大津ゟ摂丹ゟ上ル

一 伏見之町数弐百六拾之町 卯辰両年改
内弐百四拾八町ハ伏見 拾弐町ハ地廻
家数六千弐百三拾五軒 人数弐万八千七百四拾六人
伏見廻り地方
高合三千九百二十九石余
新検地ゟ四千三百弐拾石余 此百姓弐千百弐人
門 弐千三百五十八人 町方百姓
三百四十人 地方百姓
御家屋敷弐拾八ヶ所
寺数百之内 六十七ハ伏見 弐十ハ在方 寺院九拾九ヶ寺
東本願百拾七人
社数三ヶ所 伏見 両向 竹田
大名屋敷七ヶ所
豊後様 尾張様 肥後様 加賀様 京極様 井伊様 藤堂様

此外接一橋八町可橋之
伏見新船並日腋 元禄十一年寅 御免

一 淀町数 [illegible] 元禄十二年改 家数七百接七軒
人数三千七百四接人 寺院六宇 御伝寺百丈 若州分数並百三接並腋
大橋 [illegible] 長サ百三接七分 小橋 [illegible] 七ケ七接万壱人[illegible]

一 八幡町数並接五町 卯辰年改 在家五ケ村 家数四千七百八接四軒
人数九千六百三接一人 社数三接七ケ所 寺院三接三宇 祖人数五百九接三人
山上増倉四接七宇 山下寺院百三接九宇

一 宇治町数三接七町 [illegible]年改 家数九百九接七軒
寺院接九宇 [illegible] 人数四千六百六人 社数七ケ所
御[illegible]接二人 [illegible] 宇治橋 [illegible] 七ケ八接三分六厘[illegible]

一 大坂町数五百八接町余 家数並[illegible]分[illegible]並百軒余

寺院四百三接四宇 社数接ケ所 寺数五百丈 [illegible]年[illegible]
橋数百並接ケ所内接或公儀橋 船数四千五百八接[illegible] 但接[illegible]並百
[illegible]接[illegible]

一 大坂分伏見過書船数大小五百九接八腋 [illegible]内五接腋八働[illegible]
但三接[illegible]並百五接[illegible]
御運上[illegible]元和元年卯分一ケ[illegible]

支配人

一 泉州堺之町数百七接町 元禄六年酉改 外ニ百七十七丁 家数五千八百六十四軒 [illegible]
人数五万六千人余 寺院百八接六宇

一 大和郡之町数 公儀役之分百並接五町 家数五千百並接軒余 [illegible]町数
七接七町 寺下之分此家数三千百三接軒
奥福寺御門主一家院 大和郡院 [illegible]
庶役並接五人

一 東大寺 春日社家之掛り人 同社家見習之掛人 神人之掛り人
坊舎之掛り人者、此外者寺社奉行ゟ可申候

一 禁裏外廓之御門
南之方表御門
西之方 〃〃
乾之方 〃〃
北之方 〃〃
東之方 〃〃
巽之方 〃〃
新在家 〃〃
武家町 〃〃
右之外
堺町九条町口 右相見番所之鍵東門迄
烏丸中立売 同断
近衛殿南側西ニ有り 同断
今出川常盤殿西ニ有り 同断
在原口京極殿東ニ有 同断
清和院口ち町二万里小路殿南側ニ有 同断
長者町口勧修寺殿南側ニ在り 同断
寺町口武家町東ニ在り 同断
同烏丸通東側下立売口ニ在此御門 并 同之町下立売之宝永六年改
右九ヶ所御門 各下馬札立有之 禁裏御築地之内通ケ所之家屋敷割之取払ハ御免

天和二亥年町中觸出ス也

一 京極川濯町續 長経之事
南北ハ七条ゟ八大之通小川之流旗ゟ九条東寺迄
同経ゟ西新町通遠口ゟ七条迄之町續同様之町
東西ハ七条ゟ二条通大之西八町ゟ西西向口迄町續掛候九斗
同経ゟ東松原通大之西八町ゟ六条迄之町續掛候之町

一 洛中川筋之事
堀川筋 水源山奥ゟ流行出、今ゟ大街ゟ流 東ハ流大宮通ゟ西側
民家之下ニ上立売通東堀川ヘ落也
小川筋之水源野川ゟ二条ゟ上ヘ之水筋ハ南ゟ流ち候ゟ上立
売之流東ハ小川町東之下一条通西ヘ堀川ヘ落入
西洞院川筋之水源諸方之二条西洞院ゟ落ち西洞院西側人
家之後を流し四条堀川ゟ下八町之中ニ至テ堀川流れ入ル

一 洛外寺社門前境内町数之事

大徳寺門前 弐町
蓮台寺境内 九町
東寺境内 四町
廷仁寺門前 十町
言義寺門前 一町
清水寺門前 一町
又ハ上
慈芳院門前 一町
東福寺門前 一町
青蓮院境内 六町
禅林寺門前 一町
光明寺門前 一町
本願寺門前 一町
慈照寺門前 一町

北野境内 拾弐町
遍照心院境内 四町
梅津
長福寺境内 七町
祇園門前
五条
若宮八幡門前 一町
八坂
法観寺門前 弐町
大仏境内 四拾町
妙法院門前 六町
南禅寺門前 五町
若王子門前 一町
黒谷門前 一町
百万遍門前 一町
御室境内 拾町

一 山門ニ属之御事
妙法院 大仏 青蓮院 三条粟田口 梶井 大原
右三門跡御年寄次第ニ座主御勤年数ハ定リ無之三門主
并御仁和寺宮ハ御法親王入院有之御勤無之
一 三井寺長吏 三ヶ年宛御勤番
実相院 岩倉 聖護院 聖護院村 円満院 三井寺
一 東寺長者 院家ニ 仁和寺 善提院 自性院 真光院 常寿院
大覚寺 嵯峨 勧修寺 慈光院 大聖寺之 定額院
勧修寺 上ノ醍醐之 報恩院 下ノ醍醐之 無量寿院 下ノ醍醐之 金剛院 釈迦院
三宝院 醍醐 内 理性院
理性院ハ大元帥法被修ニ付長者ニ補ル事ハ例
随心院 山科
安井 洛東
右八門主院家ヨリ被之補長者ハ其年数ニ定限ハ無之也

一町代法持之町方角 并 限子 之外分

百三拾町 雲来之御城分上ハ一条まて堀川通分西之家也 并御所出蔵地通境之限也 大辻まて

限 七百八拾間 山内信之濃 手代 伊三郎

四百八拾間

百六拾五町 一条分上中立賣迄又新町通分東ヶ町也 境之限 法蔵口通 大組まて

限 四百八拾間 梅村四郎之濃 手代 小之濃 門 九之濃

三百間

四百五町 西陣之内下立賣上ハ西大組堀川分雲来之内出来分上堀川西 大組堀川分東寺町 大組一条分上数ヶ口まて

限 三百四拾間 小田川新四郎 手代 与右衛門 門 弥之濃

六百七拾間

七百六拾間

百町 二条分出水通迄堀川分東ハ新町也又ヶ町ハ清ヶ所分数ヶ口 境之限也 大組川原町 荒神口ハ四条也

限 三百四拾間

四百四拾間

八拾五町 西陣之内中立賣分上 堀川分西大組

限 七百四拾間

七百四拾間

九拾八町 三条分上一条迄堀川分東ヶ町也 大組 六角下ハ仏光寺迄新町寺町ヶ大組

限 七百四拾間

五百拾五文

八百六拾間

九拾八町 二条分三条迄堀川分東ヶ町也

限 三百三拾間

六百三拾間

百三町 三条分四条堀川迄堀川分東ヶ町也 但シ三条大橋東四丁目迄四条東ヶ町也

限 四百八拾間

[illegible] 手代 [illegible]

[illegible] 手代 [illegible]

[illegible] 手代 [illegible]

[illegible] 手代 [illegible]

[illegible] 手代 [illegible]

[illegible] 手代 [illegible]

六百八拾間
百八拾六町　堀川ゟ西新花屋町御大工町西寺内境目迄
八條堀川ゟ東本国院与蛸薬師かん東寺内境目迄入組西
寺内を限ん下七条出屋敷円浄坊ゟ西大工町迄東寺
ゟ下八条坊門迄
名代　弥三落
張壱貫八百目
七百五拾目
七百五拾目
田中彦兵衛
名代　源兵衛
同　伊兵衛
百六拾六町　四条ゟ下五条迄室町ゟ東大仏大和橋境大仏
　四条通東堀川迄
張壱貫五百目
六百目
石垣喜内
名代　権兵衛
六拾五町　堀川ゟ西大工町二条ゟ下西寺内境目迄
松原通ゟ東寺内境目鳥居通西大仏西寺内と
西七条ゟ下七条出屋敷ゟ西田溝ゟ西大工町迄七
条下九条大庭ゟ八条坊門迄
張壱貫五百目
六百五拾目
竹内安右衛門
名代　郎兵衛
新拾七町　紙屋ゟ上堀川迄ゟ塩小路大仏
新拾八町　紙屋ゟ上九室町ゟ東今出川迄
　又北薬地迄
坪内源兵衛
大工清兵衛源右衛門支配之分張弐八戌町ゟ分八出張所
西本願寺内拾四町在地子屋浦
拾一町八　四拾七町八役屋敷
　右米拾五石弐斗九升七合宛
山内清兵衛
同人
右米四石八斗
（多羅尾喜惣治
三宅井七兵衛
名代　清兵衛
東本願寺之内
五拾九町　同六拾町　右町内
　新拾五町新屋敷
御用之分拾四石七斗宛
木村勘太夫

一 京境三条通東ハ大橋口町目西ニ西ハ西寺町限リ南ハ仏見海岸十町目限リ大宮通ハ南京ニ去
橋之但西寺内ニ境ヲ十八町京領之小西本地口数居院清荒口
鞍ヲ口入組ニテリ

一 西陣ハ東ハ堀川ニ限リ西ハ北野七本松通ニ限ル北ハ大徳寺ノ内ニ至シ
此旅不限ル南ハ一条限リ

一 西ノ京東ハ七本松通ニ限西ハ大徳限北ハ中立賣限南ハ下立賣ノ武
町ノ南ニ限ル

金陸事

七年六月 京兆
福岡左衛門
千代伝之清
門 西民之恵

一 金陸後藤庄三郎小判吉家判お極ノ事ハ
極限御仕立ニ付 御所ニ依御地ニ付 小比江村ニ西ノ横ニ石
六年以来ニ付ハ京都ニ庄三郎小ニ小判師三嶋人平ニ付ハ諸国ノ
集リハ金買ニ小判吉家ニ吹ノ也ハ極原貸百匁ニ付ハ金吹師
五人極リ其庄三郎方ニハ中ニ付ハ又小判ニ付ハ関ケ原陣七年以来庄三郎ニ
付 御代ニ小判出来先頃ニ書判仕ハ関ケ原御陣以後ニ吉家判改出
来ハ此時小判吉家ニ極原ニ付 御代ニ大判ハ前ニ小判師後藤四ニ来
方ニ改出来ハ今ニ書判ニ改ニハ并法馬ニ四郎三郎方ニ仕ハ金陸ニ
命ニ服而後藤ニ云

一 庄三郎依後ニ毎年小判弐万匁ニ付ハ家吹ニ御納戸ニ納ニ諸国ノ家金ニ
金陸ニ買ニ小判祖ニ金ニ吹立改ニ付ハ家ニ吹ニ付ハ小判吉家ニ付ハ
家ニ金ニ欠数何方ニも即ニ無ニハ天和二年ニ矣ニ金ニ弐拾年平均之一ケ
年三万祖ニ立ニハ金吹師五人小判師三嶋人極リ其小判吉家吹ニ付金
改改人小判師金吹師誓紙前ニ又ニ付ハ庄三郎方ニ此ニ金ニ小判吉家ニ
内ニ祖調吹ニ付ハ其ニ付ハ此ニ金ニ内ニ有ニ付ハ

糸割符之事

一 糸割符ハ慶長年中ニ始リ明暦年中割符相止 其後
相対商売ニ被仰付 寛文十二年より貞享元年迄十三年ハ市法貨
物商売ニ而 貞享二丑年より如元糸割符ニ被仰付候

但 長崎ニ而唐船阿蘭陀商売之儀 先年之規之通 糸割符仕来候
諸色ハ相対商売ニ而有之候処 切支丹宗門之儀ニ付御停止ニ成
天気之由ニ而 依之糸割符也

子十二月 ...

一 唐人商売高七千貫目ニ被定候 元禄二巳年ニ而 但唐人一艘ニ付 ...
貞享弐丑年 其後商売銀高九千貫目
内 三千貫目ハ阿蘭陀人 六千貫目ハ唐人 代物替 ... 御座候
右高 ... 千貫目 ... 三千貫目
今ハ七千貫目也

糸割符京 長崎 江戸 ... 人 大坂 ... 之人 堺 ... 人 長崎人

町年寄并地下配分之事

一 貞享元子年迄ハ貨物商売ハ其年ニ大凡銀子壱万三千貫目程唐
人阿蘭陀人商売致シ候 然ル処 金銀大分異国へ渡リ 貞享二
丑年九千貫目限ニ定リ 三千貫目阿蘭陀 六千貫目唐人 右限ニ而
相定 商売不足之 ... 御用 ... 三千貫目 ... より ...
... 異国へ ... 右限之外 ... 文目 ... 唐人 ... 之
...せられ 川口 ... 御山 ... 十三ケ ... 之 ... 元禄
二巳年 長崎ニ而唐人商売七千貫目 ... 一艘 ... 長崎
之 ... 一 ... 唐人
... 銀 ... 貫目 ... 商売人
... 年 ... 長崎 ... 役人 ...

今ハ御 ... 之

一 長崎地下人 ... 之 ... 事
一 長崎地下人 ... 業 ... 之事

一 商売料之間宿相止し外役所江渡之事
一 代物売買人合料不苦とし候而
一 唐人阿蘭陀相手売買致候ニ付国家之地下配分金ニ而渡候而
見合之例ニ而仕候事
但唐人共新例を守りしも地下之風俗ニ而殊ニ何事ニ出て唐人之町宿ニ
兵衛ニ渡候旧例ニ準せらるへき事
一 地下之役人共其先年田地之俵主を用し役を除之可有之事 篤と減して
地下配分金ニ而渡候事
右七ヶ條長崎地下人共生年のうちにて 従之
月日

長崎地下人共ハ江戸ハ御尋ニ及
一 長崎ハ西海之直地ニ而昔我国之兵乱打續之世ニ八千石を遁れし
ところ其限役人共ニ而山田を耕し海濱ニ渡して世を渡りき
弟亦世を忘れし時より天下の乱平ぎし後ては国色商人の往開し

始ハ未長崎の地ニ来り集りし船ニとられ手様ニ而おゐて外国
商の事とやかて遂に長崎の地ニ而交易の場所と定られたるに而ニ六十列し
手数なき繁華の地といふへき処となりて其地之風俗怠惰ニしてあらる
ところハ実ニ安楽をこのミて貧しきところのハ家ニ産業なく自ら銭
用ひさることを知らすして其利を貪り求るところにあるもあるなり世にこ
孫もて永閑さぬゆへり此ところ年来の万人国の銭用おのつから富
とられて御代の御まもりたつるハ元天下の人皆ともなく思ふところにして
皆あるに其へ志遂ニ安く領して銀とめ金銀銅と共ニ列中張り年礼
おほせし国ニ下し定役人たるものの実用の品を仰きて尊きにつきて
其外の長崎奉行ありて又長崎一二万の人の為ニもあらて此年役所
地下役人共と見究らるゝ迄て地下の人々富みて其風俗を乱
其家奢をしてなりにおゐて八千石を保ところとしてまさに御国
商の法を設ける也江戸京大坂諸国の商人仕出しを御城下
其所しもの在住之役人此等の御役所にして
らせ難きと云へ地下人共其身役の難苦なりしなるを顧ミて此要思ふ

貸渡之事

一 貸渡条例之儀ハ大坂同様之取扱ニ可相成候間、其旨可相心得候事

一 貸渡之儀ハ、第一九号ニ掲ケ置候通、本局ニ於テ取扱候ニ付、本局ニ於テ貸渡人ニ対シ証券ヲ与ヘ、其証券ヲ以テ第一九号ニ掲ケ置候通、本局ニ於テ取扱候ニ付、本局ニ於テ貸渡人ニ対シ証券ヲ与ヘ、其証券ヲ以テ第一九号ニ掲ケ置候通、本局ニ於テ取扱候ニ付、本局ニ於テ貸渡人ニ対シ証券ヲ与ヘ、其証券ヲ以テ

一 貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ

一 第一九号ニ掲ケ置候通、本局ニ於テ取扱候ニ付、本局ニ於テ貸渡人ニ対シ証券ヲ与ヘ、其証券ヲ以テ第一九号ニ掲ケ置候通、本局ニ於テ取扱候ニ付、本局ニ於テ貸渡人ニ対シ証券ヲ与ヘ、其証券ヲ以テ第一九号ニ掲ケ置候通、本局ニ於テ取扱候ニ付、本局ニ於テ貸渡人ニ対シ証券ヲ与ヘ、其証券ヲ以テ

一 貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ

一 貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ

一 貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ貸渡人ニ於テ証券ヲ紛失シ又ハ汚損シ、其証券ヲ以テ

一 下り船ハ上乗ハ別船ニ下シ二ツ半

一 新造船ニ接一人ニ船ニ被ニ乗ニ下ル事
大ニ陳シ候ニ乗ニ無ニ其ニ船ニ對商人ハ非分ニ於ニ
其ニ下ニ其ニ成ニ御成敗ニ也
天文七八年十月二日

河原与三太郎
市村宮内太郎
通世中

台徳院御馬市ニ
大坂鞆浜尾張山城川伝見ニ下リ通書船ニ乗ニ仕去
天文七八年十月二日御来市ニ付ニ御通ニ也
天文七十七年二月十日

河村与三太郎
市村宮内太郎
通世中

大宮通ニ乗ニ下ケ事ニ四百枚ヲ以テ二百枚ニ下ニ船数大小七百四十枚ニ乗ニ
船ニ下ケ年年均ニ下ニ四百枚ニ八貫六百六十枚ニ乗ニ仕候ニ御ニ接六
貫ニ通ニ日ニ三ツ乗ニ与ニ市ニ宮内太郎ニ御相ニ

一 京都紙濂仲ケ名ニ 柳山裏ハ二百ニ上ニ宮紙ニ接ケ事ニ以前ニ是ハ
当書察ニ御通ニ宮紙ニ来ニ昔名仕当年察ニ御取候ニ
牧野作御書及ニ西国代ニ所ニ貢徳紙ニ作ニ止ニ申ニ付ニ右ニ宮紙ニ
紙濂ニ其ニ所ニ御ニ下ニ百ニ右ニ也ニ右ニ宮紙ニ
宮紙濂ニ也ニ小作ニ治氏ニ来ニ柳原西国院ニ居住也

一 京都四条院ニ出ニ御ハ縁ニ有ニ戴仕居ニ
柳山裏院中御ニ出ニ御用ニ段調ニ也ニ御ニ御ニ
京村柳ケ浦村之場ニ居ニ

一 宮法御ニ茶師并御通リ茶師

同郡　口
百五拾壹　同郡別所乙窟村居住

同　仁之清
井口理之清

一 山城別六ヶ所大河源流之故人
加賀川の源ハ丹州桑田郡黒田村ヶ流出丹波山城境ヘ流出大和
施政を通て洛水之加賀橋理之後
三条門の源江州諸山ヶ出山城大原村ヶ出八瀬水野ヘ落
白川一名曰東川の源白川山中村ヶ流野川二條川ヘ落合
桂川の源丹波保津村ヶ流出山城宇治ヘ流淀川ヘ落合
木津川の源大和宇田郡ヶ伊賀上野を通て山城笠置を通り
木津川ヘ流落
宇治川水源江州淀の瀬田ヘ出山城宇治ヘ流淀川ヘ落合

一 加賀川流ハ一之井手ヘ瀬田井手之底田ヲ底田本坂手上ハ黒田川
鞍馬川手ヲ合セリ山落合ヲ也

各一之井手口と云ハ水ノ下ニ大之江之井ノ手之内之落之所ハ二条西
堀田ヘ御用ヲ仕ヲ云ヲ鴨川ヲ源ハ大原川黒屋川手ヲ加也
山落合ヲ也
三条鴨の源ニ与ハ大原川共いふのり

一 東坂ヶ五条橋之巳ヲ五百五拾六万　町メハ拾弐町ニ拾万
　　長メ弐里拾町ニ万

一 三条橋下ヲ坂石弐ヲ五百ニ拾坪　但坂石ニ付ハ
　　もくさしあり

一 五条橋下ヲ坂石ヲ七百九拾坪

一 東寺五ヶ所境ニ高サ石櫃上ヶ九輪ニ金ヲ弐十八万六尺
太之境宮人ヲ以十八年十二月七日ニ御事ニ無度ヲ境ニ三重ヶ火出
焼失せり

一 山城迫江大橋小橋公儀橋之事
此ヲ洛中洛外弐之間ニ公儀橋ヲ之隔ニ

一 泰産寺子安塔　八尺四方
寛永六巳年清水寺炎焼同七年ニ而造営成就
ト鐘楼西門　本社一ゑ所ハ焼亡たし　右御修理ニ而
江御修覆被成　泰産寺ニ而御修覆被遊候　御寄付

一 東寺五重塔
寛永十八年巳十二月ゟ正保元申年七月迄造営成就
但高サ九間七尺之塔ニ而六万四千両
奉行　酒井日向守
代官　小堀遠江守

一 祇園社御造営
本社ハ寛永十八年十二月七日夜半焼亡二年ニ成る
出火失焼せり諸人驚惶之云
本社　御拝　東西之廊　同之廊　同之舞殿　相殿　鐘楼
中門　南楼門　大鏡　神輿之舞殿　神楽　三座御法所
石大鳥居　玉垣　小屋所之籠地

御旅所神殿神輿ハ寛永二年
正保二年酉三月ゟ同二年戌五月迄御修理被成下
奉行　浦野若狭守
本殿造営ハ正保二年戌正月本社相殿並東社二ヶ所大焼
寛文二年巳十月ゟ同二年午正月迄造営之修覆
奉行
多羅尾四郎右衛門
小野長左衛門

一 方広寺大仏殿御修理
本堂　御修理四十万両人
　　　此外ニ三万両人
回廊　四百三十間　四百人
　　　此外三千人
南門　六万九千人
　　　四万
　　　鐘楼　四万両人
　　　円蓮院　社寺屋形
仁王門　御修理十五万両人
　　　此外六万九千人
寛文二年八月ゟ同七年未十一月迄造営御修理仰付られ候

一 遍照院大通寺 六孫王権現新造之
本社 幣殿 三所権現社 [illegible] 中権現社 [illegible] 回廊
神饌院 御供所 御神地之 渡橋 [illegible]
宝庫 惣門 [illegible] 石階
[illegible] 六孫王社之西 [illegible] 二階 [illegible] 十四年 [illegible] 二月 [illegible]
[illegible] 四月 [illegible] 新造之 [illegible]
本行 [illegible]

一 泉涌寺法堂
御拝堂 海会堂 向拝 御殿 [illegible] 宝庫
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
西浮橋 [illegible] 庫裏 西廊下
惣門 [illegible] 御陵唐門 [illegible] 御殿

西唐門 泉涌寺屋敷 三廊唐門 [illegible] 西惣門 [illegible]
西惣門 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
本行 石門 [illegible]

一 梅宮
本社 [illegible] [illegible] 幣殿 [illegible] 御[illegible]
宝庫 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

一仁和寺御室　御室御所　東山殿　法皇御所　鳥羽殿　離宮　城南宮　城南寺　城南離宮　白河殿　六勝寺　尊勝寺　最勝寺　円勝寺　成勝寺　延勝寺　法住寺殿　蓮華王院　三十三間堂　新熊野　新日吉　祇園社　清水寺　六波羅蜜寺　六波羅　建仁寺　禅林寺　永観堂　南禅寺　金戒光明寺　真如堂　黒谷　金戒光明寺　吉田社　吉田神楽岡　吉田山　吉田祭　吉田神事　吉田神主　吉田兼倶　吉田兼見　吉田兼右　吉田兼満　吉田兼致　吉田兼雄　吉田兼敬　吉田兼名　吉田兼起　吉田兼益　吉田兼存　吉田兼隆　吉田兼煕　吉田兼和　吉田兼矩　吉田兼雅　吉田兼柄　吉田兼凞　吉田兼之　吉田兼親　吉田兼俱　吉田兼満　吉田兼致　吉田兼雄　吉田兼敬　吉田兼名　吉田兼起　吉田兼益　吉田兼存　吉田兼隆　吉田兼煕　吉田兼和　吉田兼矩　吉田兼雅　吉田兼柄　吉田兼凞　吉田兼之　吉田兼親

一第福寺　法性寺　摩尼殿　三十三間堂　法華堂　福寿院　初音殿　観音堂　新熊野　東福寺　伏見殿　御所　回廊　二十八部衆　五重塔　御堂　御殿　御座敷　御寝所　御学問所　御台所　御書院　御茶室　御庭　御庭石　御庭木　御庭掃除　御庭番　御庭師　御庭作事　御庭普請　御庭造作　御庭修復　御庭手入　御庭見廻　御庭見分　御庭見物　御庭見学　御庭見聞　御庭見巡　御庭見回　御庭見歩　御庭見渡　御庭見晴　御庭見通　御庭見透　御庭見抜　御庭見切　御庭見極　御庭見定　御庭見当　御庭見込　御庭見積　御庭見計　御庭見算　御庭見勘　御庭見考　御庭見案　御庭見工夫　御庭見趣向　御庭見意匠　御庭見構想　御庭見着想　御庭見発想　御庭見創意　御庭見独創　御庭見個性　御庭見特色　御庭見風格　御庭見品格　御庭見気品　御庭見優雅　御庭見典雅　御庭見高雅　御庭見清雅　御庭見閑雅　御庭見幽雅　御庭見静寂　御庭見侘寂　御庭見枯淡　御庭見素朴　御庭見質朴　御庭見剛健　御庭見雄渾　御庭見豪壮　御庭見壮大　御庭見雄大　御庭見広大　御庭見悠大　御庭見遠大　御庭見深遠　御庭見幽玄　御庭見神秘　御庭見霊妙　御庭見不可思議　御庭見言語道断　御庭見筆舌尽くし難し

一熊野三社　本宮　新宮　那智　熊野権現　熊野詣　熊野参詣　熊野信仰　熊野修験　熊野山伏　熊野先達　熊野別当　熊野神主　熊野社家　熊野神官　熊野巫女　熊野比丘尼　熊野牛王　熊野牛王符　熊野牛王宝印　熊野牛王神符　熊野牛王護符　熊野牛王起請文　熊野牛王誓紙　熊野牛王裏書　熊野牛王印　熊野牛王印文　熊野牛王印形　熊野牛王印判　熊野牛王印章　熊野牛王印鑑　熊野牛王印影　熊野牛王印面　熊野牛王印肉　熊野牛王朱印　熊野牛王墨書　熊野牛王料紙　熊野牛王用紙　熊野牛王和紙　熊野牛王楮紙　熊野牛王三枚重ね　熊野牛王四枚重ね　熊野牛王五枚重ね　熊野牛王六枚重ね　熊野牛王七枚重ね　熊野牛王八枚重ね　熊野牛王九枚重ね　熊野牛王十枚重ね　熊野牛王十一枚重ね　熊野牛王十二枚重ね　熊野牛王十三枚重ね　熊野牛王十四枚重ね　熊野牛王十五枚重ね　熊野牛王十六枚重ね　熊野牛王十七枚重ね　熊野牛王十八枚重ね　熊野牛王十九枚重ね　熊野牛王二十枚重ね　熊野牛王二十一枚重ね　熊野牛王二十二枚重ね　熊野牛王二十三枚重ね　熊野牛王二十四枚重ね　熊野牛王二十五枚重ね　熊野牛王二十六枚重ね　熊野牛王二十七枚重ね　熊野牛王二十八枚重ね　熊野牛王二十九枚重ね　熊野牛王三十枚重ね　熊野牛王三十一枚重ね　熊野牛王三十二枚重ね　熊野牛王三十三枚重ね　熊野牛王三十四枚重ね　熊野牛王三十五枚重ね　熊野牛王三十六枚重ね　熊野牛王三十七枚重ね　熊野牛王三十八枚重ね　熊野牛王三十九枚重ね　熊野牛王四十枚重ね　熊野牛王四十一枚重ね　熊野牛王四十二枚重ね　熊野牛王四十三枚重ね　熊野牛王四十四枚重ね　熊野牛王四十五枚重ね　熊野牛王四十六枚重ね　熊野牛王四十七枚重ね　熊野牛王四十八枚重ね　熊野牛王四十九枚重ね　熊野牛王五十枚重ね　熊野牛王五十一枚重ね　熊野牛王五十二枚重ね　熊野牛王五十三枚重ね　熊野牛王五十四枚重ね　熊野牛王五十五枚重ね　熊野牛王五十六枚重ね　熊野牛王五十七枚重ね　熊野牛王五十八枚重ね　熊野牛王五十九枚重ね　熊野牛王六十枚重ね　熊野牛王六十一枚重ね　熊野牛王六十二枚重ね　熊野牛王六十三枚重ね　熊野牛王六十四枚重ね　熊野牛王六十五枚重ね　熊野牛王六十六枚重ね　熊野牛王六十七枚重ね　熊野牛王六十八枚重ね　熊野牛王六十九枚重ね　熊野牛王七十枚重ね　熊野牛王七十一枚重ね　熊野牛王七十二枚重ね　熊野牛王七十三枚重ね　熊野牛王七十四枚重ね　熊野牛王七十五枚重ね　熊野牛王七十六枚重ね　熊野牛王七十七枚重ね　熊野牛王七十八枚重ね　熊野牛王七十九枚重ね　熊野牛王八十枚重ね　熊野牛王八十一枚重ね　熊野牛王八十二枚重ね　熊野牛王八十三枚重ね　熊野牛王八十四枚重ね　熊野牛王八十五枚重ね　熊野牛王八十六枚重ね　熊野牛王八十七枚重ね　熊野牛王八十八枚重ね　熊野牛王八十九枚重ね　熊野牛王九十枚重ね　熊野牛王九十一枚重ね　熊野牛王九十二枚重ね　熊野牛王九十三枚重ね　熊野牛王九十四枚重ね　熊野牛王九十五枚重ね　熊野牛王九十六枚重ね　熊野牛王九十七枚重ね　熊野牛王九十八枚重ね　熊野牛王九十九枚重ね　熊野牛王百枚重ね

一西之御料屋　呼義　一宮社　御料屋　東紫屋　西庫門
三所社　相殿　神人小屋　湯屋　神子屋　大炊殿
御服所　御供屋　舞殿　御手水洗水屋　雷殿
細殿　楼殿　楼門　回門　御所東社　相殿　濱御所
御料屋　護摩堂　雜舎　御廣　東西之社　河舎御社　御料屋
祝宮殿屋　幣殿　四足門　御料屋　相殿　小経所
室屋　羅城概　雜舎　四足門　庫門　神之宮
観音堂　御料屋　羅城概　雜舎庭屋　竜所屋
此外小社十二ヶ所　大小多所　羅城雜所之門　塀湯屋
隠宮
大正徳元年年号同二月九月之御遷宮
年御之御遷理事
万月銀六百　御拾四貫　御事　御事御申　四ヶ
東行　松平紀伊守殿与力　本立孫兵衛
西表無右史

一　右田神楽　四宮源殿
宮水五子年四月大続為御普請料　銀子　御拾貫目
右田二位殿　御行　二位殿　天和年御遷宮

一　麻場所并　右田社　屋舎等
正徳四年　午六月　屋舎　八月為御遷理料
白銀五百枚　御行　二位殿　御行　屋舎

一　右田源院　大御之東之
御殿　打込之二廊下　御廊下也　玉垣　護摩堂　羅城概
東寺　御供所　二廊所　御臨奥殿屋　鐘楼　経堂
大平院　小平院　仙道も廊下也　不合之事　小路
大宮別教寺屋　会閣　御りと方　風呂屋　打出下廊屋
坊主殿屋　侍殿屋　大義所　東之巻屋　酒屋　竜所
北屋　小屋　俗室　大御堂　御供所　七方主殿屋　十四所

同　松然中立壽長
同　碓井壽東九町
同　室町西源長町
同　松屋町中立壽九
[illegible]地　油小路御池長町
[illegible]地　祇園小路町
同　西洞院中立壽長
同　御幸町仁屋町九

壽三十三万
壽十二万
壽十四万
壽十四万
壽二十万
壽三十万
壽十四万
壽三十万
壽四十万
壽三十万
壽四十万
壽三十万
壽四十万
壽三十一万
壽四十万

松平伊豫守
山田信濃守
伊達遠江守
丹羽[illegible]大夫
大井大[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
加藤遠江守

同　後小路烏丸東人
同　出水通堀川東人
同　新三町六角九町
同　大宮六角九町
同　烏丸六角九町
同　[illegible]御池九町
同　油小路通二条九
同　油小路通九条九
[illegible]地　四条堀川大宮西

壽三十万
壽十七万
壽四十二万
壽十四万
壽十四万
壽十四万
壽二十一万
壽二十二万
壽十四万
壽二十六万
壽十四万
壽二十六万
壽二十六万
壽二十六万
壽二十六万
壽二十六万
壽二十六万
壽二十六万
壽二十六万
壽二十六万

松平周[illegible]守
[illegible]大[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

玉出日記

明暦四戌年五月廿七日本田八郎右衛門逸見十御軍小田調所

表玄関子多門五玄関右四人ニて水野大膳ヲ切殺之退

同六月十六日朝比奈助右衛門於高田意外者ヲ切殺

万治二己亥年正月廿二日　上様御之服ヲ　熱御祺本ニ

御能弾見ヲ　御付今明日二日之

同七月廿七日大久保丹波御改易ヲ　御付御茶遠

上様ニ　上ヶ御　元本ノ由也

九月五日今日ヨリ外曲輪御門番　元ヲ　御付ル由

万治三庚子年六月十八日於大坂雷電強鳴　御城内江塩焔

義ニ落城塩焔ニ火付普町屋侍屋敷頼人モ多ノ番
右ニ付大坂在番荒ニ内佐ニ木庄五郎川井次郎言傳為
御註進六月廿一日大坂発足同廿五日ニ来江戸忌ニ由
七月十九日松平陸奥守作法悪敷ニ付伊達兵部立花
左近并陸奥守家老共連判ニて御公儀ニ申上合
閉門被 仰付
同廿日松平陸奥守閉門ニ付津田平左衛門上使ニ
奥別ニ出立
八月廿三日世間茶ニ付善ニ此切茶ヲ此元越ニ下ニ付
玉虫助十郎御切茶百俵清取今日二十九歩ニ拂
同廿七日松平陸奥守御武子息ニ付 仰付今ニ兄田村
右京亮ニ三万石伊達兵部ニ三万石ニ下ニ
同廿八日大久保権左衛門内者欠落ニ付清人ニ被ニ代令
子元其之ニ為人代リ出ニ横浜ニ申清人御公儀ニ申出ニ付
権左衛門奉行ニ 仰付申村瀬義十郎同様左衛門与
云人有リ兄義十郎遠人ニ依テ親治武三千石ニ内弟
様左衛門ニ武千五百石ニ下兄義十郎ニ五百石ニ下
数年迄ニ処義十郎弟之ニ不成依テ様左衛門知行武子五

百石之内五百石ハ合力彼金今度彼之五百石返シ申掛と
精左衛門申ハ仍無返弓殿と爰十郎申ニ付テ
之聞ニ至爰十郎兆儀成度申依御政務ニ 御付
身精左衛門義ハ兄と而ノ論堪忍モ不仕 御公儀ニ出ル
変石届ニ 思ニ彼論ニ右五百石ノ知行ニ 石上
或千石ニ付申
十月堀田上野守 公儀ニ御不足有之由ニ在所沈
倉ニ引返
十一月三日於度堀田上野守不儀ニ 脇坂中務ニ以飢
刑知行信濃ニ 之事之上野子常刀ニ高三百俵ニ付金
上野城清取申様ニ 柄木民部小輔ニ 御付御同付ニ
猪飼半左衛門安茂市郎会衛ニ 御付城書ニ 安藤
對馬守新庄越前守ニ 御付ル
萬治四辛丑年五月五日於雑子橋大久保頼母ト天野三右衛門
彼喧嘩頼母ハ斉合ニ三右衛門ハ未御奉公ニ不出出張ニ
付居ル由之三右衛門 弟ニ外働相手五六人ニ手痛負セル
我ニ多勢ニ一人ニ而ニ 終ニ切殺頼母未固望之
同十五日去ル五日大久保頼母天野三左衛門喧嘩ニ彼頼母

京ノ下死人一人出埒明一ヶ申由　御公儀ノ今日ハ　御附也
同年十一月ノ末虎ノ尾ト云星出ルト云　●●●▼如此形ノ由
同年壬八月三日松平和泉守ハ四万石ノ加増都合十八万石
ニ高ニ而　御念ニ　前替ハ　御付
同月九日今日左馬ノ様ニ甲列御城十万石ニ加増
ハ進右馬ノ様ニ舘林ノ御城并十万石ニ御加増ハ進
同十一日今日左馬ノ様ニ山口出雲ニ鴻田源右衛門　右田
十左衛門三千石ノ御加増ニ而御家老ハ　御付　渡辺上窪
御城代ハ　御付　右馬ノ様ニ大久保宮内松浦武蔵

黒田源右衛門三千石ノ加増ニ而御家老ハ　御付　今田
熱ハ御城代ハ　御付
同十二月三日堀田上野ニ息同常刀屋敷ニテ堀焔ニ火付
ハ子ル其音強雷ノ落ル如シ天ニヒヽキニテ戸ハメ動ル
丁強キ地震ニ不異黒煙立事如火事ニメ影ニ止其
強或ハ組付荒ハ天ニ飛ニ飛行或ハ物ニ渚役人
ハ其役不飛行ト云
同月十七日月ノ出バ十二本ノ両方ヘ白キ長キ雲出ル
ハウキ雲共云ベシ

寛文二壬寅年三月廿六日今日ゟ御茶畠ニテ諸与力同心
御前的有御弓(ゆ)先
廿七日今朝伊丹播厂守ト一(勝長)家内蔵助ト喧嘩致ス毎方
共死是(善政)田老前ゟ同座友ノ内ニ底頁
四月八日此徳郎都筑孫左衛門御改易ニ御付別松平
相模ゟ此郎其意執ハ大名前来勤御礼有之其次ニ
醫師口庵来勤之御礼有之其次ニ孫左衛門宮治
御茶詰ニ其也御眼マニ不由ニ御渡ル処ニ醫師ノ詰ニ
御目見ニ出申度不心ニ入トテ不出因此御改易ニ御付

先月廿七日一色内蔵助喧嘩ノ義内蔵助兆義ニ付テ
家内闕所ニ成才ハ保科肥後守之此郎内蔵助書子ニ至
同六月十日　上様安宅丸　上洗ニ為成
同月十三日於日光大風雨大水出御目付屋敷流目付
田中三左衛門ニ流下ニ死去在々ニ屋敷数百間流人
弐百人程死ス由
同月十九日内茂六左衛門親子三人夜前七ツ時ゟ氣違
内之者才抔切殺門外ニ出过番二人切殺又内ニ入家ニ
火ヲ付ル家皆焼乱氣三人共自害スル云皆寄合殺ス云

七月十三日酒井宣布死去
十二月上杉宮内小輔長負甲戌（周茂卿朱ヲ）禁中ニ上使ヲ系新院様ノ
勅鞍取落ヲ中終ニ不見自然ニ面目次第トテ自害ニ及
小性外諸メ列切腹スル
寛文三癸卯年四月日光御社系十三日辰ノ刻　出御同日岩附
御泊リ十四日岩付ヨリ辰ノ刻　出御古河御城ニ来ノ刻ニ
御十六日古河ノ辰ノ刻出　御小山御立休申ノ刻宮都宮ニ
ニ　御十六日辰ノ刻古河　出御七ツ時日光ニ　ニ御十七日
夜前ノ雨降ニ四ツ時少ノ間止来ニ雨降　御宮

御系統十八日天氣吉　御門ニ於ニ為　成十九日天氣吉
七ツ過ノ曇来ニ入晴ル　御仏前ニ於ニ為　成十九日御逼安
廿一日来前ノ雨降辰ノ刻止四ツ過ノ天氣吉来晴ル辰ノ刻
日光　出御　庫沼ニ至　御休申ノ刻壬生御城ニ
ニ御廿二日天氣吉壬生御城ノ辰ノ刻　出御未ノ刻
古河御城ニ　ニ　御廿三日天氣吉ニ於ニ　ニ内
曇ル七ツ時未又曇古河ノ辰ノ上刻出　御　幸ノ
御立休未ノ刻　岩附　御城ニ入　御廿四日天氣吉
来ニ晴　岩付ノ辰ノ刻　出御白戸　御城ニ未ノ刻

入御
上様宮都宮ニテ時鳥ノ音ニ愛ス其刻御発内
のもとも京川ニて鳴や時鳥
八月朔日大坂御城番鳥井ヲ膳内ノ醫志ニ突殺サル、
十月三日申ノ刻新御番吉山茂右衛門組戸田次郎左衛門ト
川尻弥左衛門ト喧嘩意趣ハ不寝ノクジ弥左衛門出ル処ニ次郎
左衛門悪敬クジ乱出悪敬トテ弥左衛門ニ小雑云ヲ茶度安
其後小用所ニ次郎左衛門肩ヘ弥左衛門ニサワリケル友是ニ
次郎左衛門腰立敬ニ悪口イタス然ルニヨリ相番寄合小林
令右衛門宅ニテ和談イタシ夫々二三日過次郎左衛門方ヲ
弥左衛門方ヨ押掛行所ニ打首弥左衛門門前ニテ出ル
候果シ左右共ニ死ス
十二月十二日山本三右衛門ト田邊鴻三郎ト喧嘩三右衛門切傷
ノクル意趣ハ朝比奈鴻右衛門娘ヲ三右衛門肝煎ニテ鴻三郎
所ヨ出ス于ニ首ニ根子ニ三右衛門氣ニ不合度有ニ而之
寛文四甲辰年五月十四日ノ来松風十左衛門岩子五郎右衛門
松明ヲ立五十人連ニ而来半過ニ十左衛門所ヨ押返所ニ
十左衛門起合防ク実子五人切殺退ル時センサクトシテ

旦状出る

寛文五乙巳年正月二日ノ夜酉時ニ按列大坂御城内御天
守五重目ニ雷落掛炎上御塩噌蔵ニ十間往焼火御
蔵ノ内ニテ御薪三千八十五結塩三百四石十二斗鐵廿
七万九千五百但海前瓶廿四ニ入ル味噌二千五百蔵目ニ
仮武千石焼失奥ノ御番所ニ長サ拾五間往横四ツ焼失
同二月廿九日麻布長坂ニテ日根橋中郎ト浪人喧嘩
有之宰人切殺サル、
同三月三日大橋長左衛門道ヲ行向ヨリ中間三人来掛リ

長左衛門ノ若黨ニ切掛其中間彼若黨ニ深手負ノセ
走出ス所ヲ過番人出逢ヲ刈切殺山崎四郎左衛門殿ニ
走入ル所ニ長左衛門追掛行彼走出シ一ツ結有ル四郎左衛門
ニ出ル所ニ長左衛門退去右ニ付同月十日山崎四郎左衛門
閉門ニ 御付 細度不知
同八月朔日一柳監物日来不作法者ニ付昨廿九日松平
加賀守ニ此頃ケ二千俵ニ扶持方ニ下由
同月四日天氣吉八ツ時ニ曇申ノ刻ニ海夜強雨山田
六右衛門来横丁海松中ニ波喧嘩相手無相違討

立退夜ニ入糀町貝坂玉虫十左衛門屋敷ニ内ル
五月十三日於番所被喧嘩富士又左衛門ニ喜ニ不明
悪愛沙汰有之ニ付親喜左衛門ニ又左衛門ニ出ル様
御越ニ成依然又左衛門当月十一日之ニ求書ニ陽
忠右衛門不近出則切腹ニ 御付相手木村右門八
只今近親勢ニ御頼ケ金ニ成右門八ニ切腹三ヶ成子
御成敗ニナル
同十月廿二日 館林宰相様御城代大久保越中守我続
成此新舘中ニ而ニ付 松平淡路守ニ御頼二男ニ同新

長男内門ニ 御付
十一月五日 酒井長門守依田源蔵母人御改易ニ 御付
千ニ喜ニ頼ハ長門守娘ニ源蔵不入女元約束ニ云人近
世又不ニ長門守方ヶ娘世間敷由中ニ付 丹波源蔵方ヶ
御公儀ニ中出ル様ルニヨリ母人共ニ御改易ニ成由之
十二月廿一日去ル十八日角田川御鷹野ニ為 成刑法
ニ而被濕与友呉服二ツ宛ニ不由御徒荒ニハ一ツ宛
御小人ニ金子三ヶ両宛ニ不由
寛文六丙午年五月三日東極丹後守依為石成石道父

安知方ゟ新状指ニ而ニ我ニより領知ハ 石工共同条曰
京極安知方ヨリ 沂状ニ而去冬ヨリ至當春 丹後ゟ
訴ニ 教状 雖書之 危角令難治 父子之挨拶不成
之事 丹後ゟ家督以後 對安知不孝之不之不可勝事
其上一事不和不通之事 家中諸士并領内百姓困
窮之事 右之條々不届至極ニ不成行治内之
雖ハ 吟古之成 御省免ハ指至而ニ今度安知方ゟ
書付ニ而ニ 領知ハ 石工而之 丹後ゟハ南部大膳宴
御訴ヶ息 近江ゟハ 茂嘗大学 ニ御訴於 辞定所

以小笠原山城ゟハ 御度小條安房ゟ高木伊勢ゟ村越
長門ゟ渡辺大隅ゟ森川小左衛門 別座 但辞定所松平
彼後ゟ荒木十左衛門 右両人ニ而 丹後ゟ同ニ 丹後ゟ
城地清取ハ書ニ而ニ松平若狭ゟ松平主殿ニ小出
伊勢ゟ右三人 依為在所以奉書傳之 但シ青山大膳亮ハ
御付御目付 黒川 丹後ゟ能勢次左衛門 御勘定ニ
両宮次郎左衛門 御勘定荒長谷川久之清金九兵左衛門
河合孟之丞ハ老水谷左京是ハ至在所以奉書ハ 御付
九鬼長門ゟ右両人ニ 丹後ゟ領内宮津城在番ハ 御付

同月十八日於須城町御旗本前大勢喧嘩イタス
六月九日去月十八日喧嘩ノ儀ニ付諸番所ヨリ組ノ志喧右者ノ
如不行ニ無之相憐下中ノ上意ニ趣中渡ス
九月九日渡辺久左衛門森内犯ヨリ近日海来ニ宰人ヲ切殺
六月晦日之源シ亜ヨリ城御公儀ヨリ知レ二三日以前閉門ニ
御付
十月十八日若間勤左衛門兼ヨリ博奕ヲ好キ于外不仮ニ義
数多有之ニ付今度御公儀ヨリ知親勤左衛門二男六十郎ヲ
本多美作守宅ヨリ喧重罪ノ事ニ於御渡ニ而被仰諸侍ヨリ
出頭ヲ程不ニ無須八十郎宿ニ有之ニ素子ニ連立退自吏
彼ノ八十郎有不於知所ハ不ニ番所安配方ヘ一ヲ届有云
渡有之ニ法御旗本前ヨリ鯛旦不ニ知行ヨリ下中老分之
十一月御天守番関市十郎不道仁タルニ依親ヲ以ニ成
中ニ上ル自吏御成敗先日之由
寛文七ヲ未年五月廿九日小十人組三宅伝左衛門ト組下岩佐
弥五左衛門ト二ヲ发出入ヲ以ニ同番所中取扱雑ヲ伝左衛門
モ弥五左衛門義乗ニ合点ヲ以ニ付先月朔日永井伊賀ヲ敬
近番所中ヲ以ニ親吏今日伝左衛門ハ閉門ヲ御付弥五左衛門

八枚野龍彈ニ而出ル成同年十二月廿二日三宅鴻左衛門
門御赦免
十一月廿一日玉虫又三郎新規ニ於　呂出
寛文八戊申年二月朔日庚午天氣吉北風朝より吹九ツ過去
強块立天暗シ未晴天八ツ時風宮中ニ半返酒井修理殿
下屋敷ゟ出火天弱ニ通り田町町屋夫ゟ御城ヲ越
四番丁三番丁六番丁五番丁二番丁夫ゟ糀丁ニ焼出
六丁目ゟ下モ一丁目迄夫ゟ松平越後ニ上屋敷伊井玄番
屋敷通り下町大名小路ヘ焼ル此火事宮中ニ本ニヨリ
出火数百間焼是も下町ヘ焼出ル夜ニ入而ハ時四ツ谷塩ノ
出火尾張殿紀伊殿山屋敷夫ゟ赤坂ニ焼通ル江戸
中警動ス
同四日癸酉天氣吉小風朝ゟ吹日中ゟ風宮強去块立夜
晴天風吹卯ノ下刻四ツ谷町ゟ出火紀伊殿屋敷夫ゟ夜
町不殘籠地侍町松平大膳夫ゟ増上寺裏通り
細川越中ニ而迄焼失未ノ上刻ゟ上野車坂ノ前ゟ
大火出来本所ニ而西ニ而ハ迄大名前ニ而ハ西ニ而ハ大夫
夜之焼ル江戸中強動キヒタヽシ

去月廿八日西ノ中刻西天ニ酉ノ方ヨリ未ノ方ヘ赤光成箭モツ
立形ヲ以箒モ長サ十二三弓程ニ見ル皆ヲ以テ消ル
三月六日日下部西郎八彼庭進退家来ニ者ニ彼挟持
小料ニ葦男女ニ以テ教多今殺害モ之ニ知行ヲ
仕金悪渚事不限法ニ限及　上関領知ヲ　百ニ定
此定國ニ而ニ御追放ニ事
同後留平左衛門彼累年知行仕金悪百姓ニ対シ非分
ニ深彼中越ニ今周窮モ之ニ家来ニ者非ニ百仕
常ニ不限法ニ限達　高越領知ヲ　百ニ此定ニ而ニ

而ニ此追放ニ事
同三月十七日大簟笥臥小彼吉右衛門ト鉄炮臥久永源ニ進組
与力　性名不知ト　喧嘩モ之ニ意趣ハ御先手鉄炮流組此五葉清取ニ
去ル十四日御矢人矢ヲ出吉右衛門同人者御五葉渡シ御大倉ニ
出ル吉左衛門義出ル処ニ久永源ニ意組同人吉右衛門ニ恐ヲスル
吉左衛門同人ヲ以テ外強訶スル私処久永ニ与力名不知
吉左衛門前ヲ出腰立ノ趣尋吉右衛門弥腰立彼与力ヲ強
訶モ之度ハ乗ニ離帰リ十七日ニ与力吉左衛門不ト見舞
吉左衛門出対ス処ニ与力吉右衛門ヲ切小彼義抜合切ル彼是迄

故不切小阪組ニテ無力ナキ実無力モ実親兄小阪ノ子供末無之ニ
切殺ス
五月廿一日御小姓組坪内源五郎ト小十人組永野源三郎ト
奥坊境海ニ付喧嘩源三郎即死源五郎ノ手負
退キ候由一説ニモ死去ト云互ニ下ニ死人二三人有之由
八月六日御代官宮家三左衛門子供五人今森飛騨守
伊達宮内五人ヘ三人宛御預大目付北条安房守目付
宮家事五人衆中渡御蔵ニ而御代官所何ニ三年ニ
亡度々御勘定仕不足ニ付三左衛門五年之仕三左衛門死ス

親ニ依子供五人御取上ケ御咎ニ 御出
奥平民部少輔春死之家来松浦右門衆退 腹切候
丈波若将四人切腹候 御附 婿五人追放之民部少輔
治武十二万三千石之内二万三千石ニ而上總九万石宮
松平下總守知行不宛上ケ候也下總守ハ民部少輔知行
不宜津其ニ候也
十二月廿八日御小姓四谷居住候ニ付御医松浦大隅守
伯父ノ松浦八郎五郎四谷屋宅ニ而医者ノ相役ニ而
受四谷宅ニ乱気ニテ大隅守ヲ切殺候ニ付八郎五郎ヲ

切右衛人ニ為四吉衛ヲ壊留服部ヲ大隼取之

寛文九巳酉年三月十四日 紀伊玉殿御家来香西室右衛門

於 御前弓射ル イニ 吉見太右衛門 安人之笠井室右衛門ト有

七月十六日 来酉半刻 光物酉ノ方ヘ辰巳ノ方ヘ飛テ飛

九ク鞠不異ニ行ニ同形ニ次第ニ小サク数多飛鐘之

十一月十四日 奈良奉行 去屋忠次郎 閉門ニ 御付 山田

八郎衛門 改易ニ 御付

廿二日 於高田火事ヨリ者有之 牛込寺町ニ 先ノ月

火付ニ 有之

寛文十庚戌年五月廿七日 新御番 鈴木伝右衛門 御番代ニテ

退出ノ刻 横田下馬先ニ 永井伊賀守中小性ヲ 伝蔵

馬ノ口取ト行 歳中小性 伝右衛門 馬ノ口取ヲ小切伝蔵

誰ヲ取彼中小性ヲ又実トイタス処ニ 徒ニ中ニ入彼歳

人ヲ一可能ト云 執史ニ 訓ヲ互ニ散ル由 其夜 伊賀守

右中小性切腹ヲ付ル 仁右衛門 馬口取彼成敗也

六月十日 戸田作右衛門 岡野長十郎 三千石御加増ニ

甲府宰相殿ニ 御家老ニ 御付 白田同年筆播ノ事ニ 御付

十月晦日 水野伊豆守 御大法於殿中大橋長右衛門ヲ

散々悪口ニテ之服ヲ取ヲヌキ申ニ付今日切腹ニ 御付
長左衛門支ヒ意趣不覚旨申之ニ付ニテ候ニ拾遺之
寛文十一年亥年三月廿七日酒井雅楽殿宅ニ而奥列之
家老共被喧嘩ニテ意趣ハ伊達安藝ト東田甲斐論ニ
及公儀ニ訴ル甲斐悪事ニ極リ今日對ケツノ処弥東田
中沢不立安藝ヲ切殺
六月廿六日三番町於三宅弥兵衛屋敷前ニ構東左衛門
今子高右衛門ト云馬乗喧嘩有リ高右衛門大キニ働キ東左衛門
錢ヲ切打リ東左衛門三ヶ所ノ手負セ東左衛門若黒三人
例度切殺、残四人ノ所ノ手負セ自十一ヶ所ノ手負ヲ又
廿九日松風左衛門年来不作法人也悪敷ニ付今日松平
甲斐守ニ御預ケ
六月朔日 初百土生
七月廿九日朝々山城松平相撲ニ又家中ノ若黒ヲ切刻
首尾悪敷ニ付以扶持以放ニ放也今日ニ 御出勤夫今来
自殺
九月朔日諸大名前ニ而筆相様土江御白書院ニ押付ニ為
成ニ付御書院前ニ宮崎助左衛門御目見所ニ土ニ申報ト

[illegible]処ニ和野同治ヲ悪変挨拶ヲ云々ト申候 至 二閑
御役儀ニ 右之閑門ニ 御付
寛文十二壬子年二月朔日卯ノ上刻より小風吹辰ノ半刻ヨリ
風次第ニ強成午未申終之ニ強シ坱ニ立天ヲ揉ル異
暗坱家内ニ入テ必ニ雪隠及蓋ル風和ク夜晴天小風強吹
暁方止
同二日ノ夜七ツ半時ニ市ケ谷之陽理坂ノ之后田七ツ雨霰
ニテ
意趣付有テ強移変ニ至ル大事出来ニて強ク
由火消役堀田不前左衛門も同与力同人門卒出ル申右
意趣付之ニ
同四月廿六日之夜於本石ニ意趣付有之由沿紀無之
寛文十三癸丑年九月廿八日延寶ト改元有之同廿九日去井
能登ヲ敬ニ御渡由
五月八日於本庄御白木ノ細谷弥次右衛門ト酒井能右衛門兄堂
三人ト彼喧嘩弥次右衛門当死能右衛門兄堂三人切腹ニ御付
八月廿日辰之時出生
九月廿三日御賄ニ岩手左右衛門引負有之御勘定不届
此年水野民部ニ御訴嫡子ニ左衛門ハ今度万ニ而ニ御訴之

十月十五日夜半人組伊藤長兵衛於自宅致乱氣内儀ヲ
指殺刎自害スル
十一月十四日去五日　公方様角田川御鷹野ニ於為
成ル義於御前御鷹屋ヲ出テ御徒ノ者助取ニ火付ヲ
ヨリ又或人ニ行為　取高麗之張史御徒ノ者三人以扶持
ニ　百放右ノ臣茂堂至馬関門ニ　御付
延寶二甲寅年
延寶三乙卯年　三月晦日九蔣田丁屋敷ヘ引越三月廿一日
町屋清ル

四月町人共ニ拵備第有之ニ当ニ至間ニ付第三年七年ニ答ヲ
積リ田町屋敷ニ三石三斗八升四合右四月十六日家ニ至
長右衛門ニ清取
延寶四丙辰年七月十六日先日右田加兵衛方中間門番ヲ切殺ス
致ルヲ今日清人捕来同七日右捕来中間ヲ今七時
玉虫十左衛門ニ連行七時成敗スル　市服長ニ生袈裟ヲ
前鴻番右衛門切ル平地ニ入
去ル五月十九日布施孫兵衛覚　新兵衛森川鴻右三三人
関門ニ　御付八月三日右三人関門御放免之是ハ無度

御蔵様御病中ニ付御預ニ候テ御免之翌五日
御蔵様御遊去之
八月十七日夜ハ前来挑ヲ八ツ目於沙留橋大御番桂村
土佐守組間ニ而助右衛門ト鈹林様御小性荒毛利七ヶ衛ト
喧嘩有之七ヶ衛別死助右衛門手負双方百仕不及申
鍵持菓屐乱挟箱持ニ而追働手負大勢有之由
同十九日ニ而助右衛門切腹ニ 御付毛利七ヶ衛義ハ於二九ニ
ニ 百玉鈹林宰相様ニ 進志ニ而切腹ニ 御付喧嘩双方
御相会法ニ而 無之旨ニ 御流れ之

延寶五丁巳年六月十六日酒井修理閉門ニ 御付其様子ニ
先年堀田三郎ニ曲事有之ニ付御飯ニ成下ニ候カセ鈹立
頃三郎ニ京都遠之ニ仍由ニ而聞有之ニ付歳十四日土波
十左衛門ニ 御付四五ノ燈沈賀河波ニ三郎ニ而飯ニ成
同茲之
同廿二日堀田備中守逼塞流登城ニ而候ニ堀田三郎ニ
不作法タルニ依六月十四日ニ以飯ニ成同茲十四日ノ頃ト沙汰
逼塞之
八月十四日水野右門殿玉虫流左近日晨ニ而ニ引越ニ付

為眼ヲ入来

十二月九日東明前本庄三ツ目橋来御祐筆ニ京宮左馬

訴ヲ何者ヤラン二人余リ宮左馬ヲ切殺立退ク

延寶八ヒ午年正月二日東御淫初ノ東諸役人出仕御ハ安

是野孫九郎陸尺ヘタバコ頃前田橋ニ而組ノ同心尺付ヘ割ス

又頃ニ付割ス陸尺ヘ切テ難云吐ニ付同心欲扶戒陸尺仲ヲ

百人余一所ニ成伐同茲同心大勢弛集左動スル下臈也

御ハ依御穿鑿ノ上孫九郎陸尺ヘ内尚人三人宰会ニ

云 御付残ル人ハ陸尺ハ孫九郎ハ御第一中ニ付ニ御渡

孫九郎後ヒ皆渡遍塞一ニ御ニ出国組馬ヲ殿ニ御渡能

夫孫九郎遍塞ニ舎ヲ田中孫九郎ヒ御公儀ヲ悼遍塞ニ而

四月二日六番ノ仮田次郎右馬前ニ田府宰相様ハ家中左田市左馬

渡候

四月十七日大雨出生十二月ハ前右馬左田名右馬養子ニ

十一月廿一日甲府中将殿ハ家来ニ御名御右馬出家文左馬同

云 御付

延寶七己未年八月七日土屋伊与ヲ渡乱心日来家中ヒ仕立

祝法ノミ島ヘ渡越悪发御 目見モ右渡一日事省法ニ付

弐万石之新知ニ而上ミ島ヲ別領ニ而　壱万三千石ニ而由
今日ニ而御出
十月九日松平越後守殿家来荻田主馬所出并記渡ス九十郎
永見大蔵中根長左衛門以上五人大名五人ハ御預被成之由
別紙ニ記
同十九日松平越後守殿家老五人御預被成
延宝八庚申年四月十四日坂下於天間八右衛門屋敷遺跡有書付
別ニ有リ　本ノ二　同十日　於二ノ丸酒井雅楽頭御宅ニ而上ヶ物之御慰ニアヤツリ　上覧有之仕候
同十九日於二ノ丸稲葉美濃守殿御宅ニ而　上ヶ物御慰御能
有難波　清経　杜若　鵺　鷺　張良　〆七番御能
上覧之上右近ホウカ上演有之
同廿七日於二ノ丸大久保加賀守御宅ニ而上御慰石川アヤツリ仕
五月七日　公方様御構御聞石ニ而御座候処　御構為
同諸大名衆諸役人不残出仕御構被仰御沙汰
此夜五ッ時館林宰相様御養子ニ可被成旨ニ而御出ニ付今晨
平刻二ノ御丸ニ而御入本丸ニ御通リ被遊御本丸御出
公方様　御目見被ニ任大納言押付二ノ御丸ニ退出後
御危中何之御出館林様ヲ御養子ニ被極被ニ任大納言ニ

由并二ノ丸ヨリ伺公御礼ヲ申シ旨酒井雅楽ヲ以テ御渡ヲ
給ヘニ二ノ御丸ヨリ伺公御礼申シ之八ツ時退出御前ニ付
火ノ用心ニ成ル事ヲ御機嫌為伺御書方ハ下ニ以テ出ル
八日諸大名流役人御機嫌窺也　城九ツ過退出今度
大納言様ヲ御養子ニ被ル組中ヨリ下ニ渡ル　松平
周幡守殿　石川兵部守殿ヲ御渡
九日為華窺御機嫌朝五時諸大名流役人出仕此晩
薨御ヲ被由於御白書院御老中以愁度酒井雅楽ヲ以殿
ヲ御渡

十日大納言様奉伺御機嫌トシテ諸大名流役人二ノ丸ヨリ
出城
十四日　公方様御棺今日酉ノ刻ニ野ヨリ被　入御
廿六日　公方様御板今日酉ノ半刻ニ御廟ヨリ渡御ヲ被
御棺十四日ヨリ今日迄八御門ヲ御黒書院ニ出座ヲ被
六月廿七日夕方於増上寺永井伝濃守ト内藤和泉守ト
彼宮院和泉守乱ニ氣ニ而伝濃守ヲ一右刀ニ切殺ス同廿八日ニ
和泉守切腹ヲ　御付　七月十日　大納言様御本丸ヨリ
御移徙ヲ被因茲于二三日ハ御書院對ノ麻ニ下ニ見ス

七月十八日諸役人於評定所指云同有之其案文曰
今度御代替ニ就弥奉重　公儀御為第一事務限
前ニ云　御付ハ越望相守御以御後閣役仕間安事
一　御門方諸大名諸侯出来雖為親族縁者奉對御
為以無心一味仕事安事
一　御奉公無油斷入懇相勤一事ニ事年号月日
奥ニ前ニ通御文有大名深知書事辰十年熊本書辰堀田御中書辰
三人ノ名訓也
八月廿三日　将軍宣下有之公家衆御對顔

十月撰次第星出ルト云八日ノ求又ハ寅ノ下刻東ノ方ニ光ル星
或ハ出更ニハウキノ如ク弱ニ方ニ出ル之
廿日後府在番より今度若ノ衆ノ内蒐松弥左衛門奥津
左衛門西尾十右衛門三宅内蔵助御改易ニ云　御付ニ云ハ
於後河為慰英保ハ右四人ニ云条先ニ云ノ内間元服ニ入ニ云
御城中ニ入事不成者書衆ニ所御城入ニ成今度御
改ノ時ニ下ニ在番衆何も云中ニ同茲御改易之
十一月三日戸田八郎兵衛大沢左衛門日根野長左衛門近藤
能左衛門中根主税撰六人御目付ニ云　御付　英濃御弥左衛門

同動云傍大田鴻八郎永井作之丞柳沢弥吉之丞以上五人
御小納戸衆 作付以五人ハ 徳松様前之 公方様ニ 百丞
十二日 桂昌院様 御城ニ御移徙 廿七日 徳松様 両ノ
御丸ニ御移徙
十二月廿三日 松平越後守殿家来 是鴻云波ハ松平大猪正ニ
出訴本多七左衛門ハ松平若狭守ニ出訴小栗美作ハ松平越前守
出訴ニ成
延寶九辛酉年十月九日 天和ト改元 二月十日 求世時山王ニ石ノ雪吾笠木中ヶ折ル
二月九日 加賀爪甲斐守成松平出作守之出訴是出作守石川
若狭守ニ出訴 伊奈左門成ニ 二枚弾正大弼ニ御訴ニ 三枚ニ
先年甲斐守出加賀三千石ニ 伊奈左門御代支地相渡処ニ
出書出シヨリ 多相渡 世ヲ以度顕在之
三月廿七日 鴻田出雲守御役ニ 百敷上閑門ニ 作付
六月十九日 酒井下総守松平内匠頭ニ 安藤弾正ニ 牧野掃津守
中西呉出 西濃郡一学 猪屋長六ニ 御郡ニ 小林作次
台湾鴻田越中守川田六郎左衛門 右十一人御役御免
廿二日 松平越後守殿家来 小栗美作嫡子大六ニ 五人切腹ニ
作付同藤田主馬 永見大蔵八丈鴻 是鴻云波本多七左衛門

毎人三宅鴻小栗会庫同十蔵安茂次左衛門三人大鴻ニ至
同廿三日松平越後ヲ殿家来庁山和紀中根長左衛門渡ル
九十郎戸川主水右四人以飛林内蔵助小栗右門植気
久会衛野本右近安茂平六五人追放ニ 御付
同廿八日越後浪人親戚縁者由緒有之分ハ仕置安茂ニ
石苦ハ越後丞五七ニ及ヒ御之ニ無之ニ無之ニ拵ニ
以上右之通ニ 御出ル
八月廿二日西川瀬会衛石飛法之成有之ニ付之徳 御追放
十一月二日松平栄来 松越伊与ヲ毎人閉門ニ 御付ニ子細

毎ニ橋以普請ニ付為奉行被度ニ 御付処ニ彼橋曽石丞
来同茲ニ 御付之
廿二日三田伊賀ヲ領地ニ 石之御改易奥平小次郎ニ
以飛ケ嫡子弾正ヲ浅野道内ニ以飛之
十二月十日酒井日向ヲ伊井掃部ニ以飛ケ嫡子万千代松平
伊豆ヲ以飛ニ 御付
天和二壬戌年二月十日松平大和ヲ同上野介閉門以赦免大和ヲ領地
播磨姫路十五万石ニ 石之豊後之内日向ヲ七万石ニ下
上野介知行三万石之内三万石ニ 石之石毎人以越後強

云 百五十四年 懐宛云 下二ノ九ニ 日下相結旨云 御付

六月廿一日久保吉左衛門 牧野猿河守ニ 此訳子求ニ 當男伊織

母人内友紀伊守ニ 此訳ヶ

七月九日小出弥一郎 義常列松平奥陸守於領地 摘一作

七日御當地ニ 来坂本右門左文云 御付此穿鑿之由

八月東ノ方尚 篝星寅ノ中刻出ル

十一日津金又左衛門 訳内友橙九郎宅ニ 切腹云 御付云

御渡津金又左衛門 後日来業作悪 致ニ之今度百仕之去

欠落ニ付 彼非ニ形有之ニ付 切腹云 御付又左衛門御腰ニ 物之

御書院番 桑川 桜津守 組作名守 源四郎 日来業作悪

致ニ之今度組訳稲葉庄右衛門ト 非義成 彼ヶ分ニ付 父子

五人此訳ニ云 御付

同月廿二日源四郎 後ハ大鴻ニ云 老同四郎 次郎 義兎井松ニ 兩人

此訳同源六郎四郎 六郎 二人松平相模守ニ 此訳ヶ

九月十九日御小性 荒川長門守有田伊勢守 閑門云 御付

十月十八日 大家内御代 大宗六合湯ニ之子市合湯同此代官

中村杢右衛門 ニ之子橙合湯御追放云 御付由

十一月廿一日中川八郎左衛門 父子三人切腹云 御付

天和二癸亥年三月二日中山勘解由今度風呂ニ　御付処ニ
情出ル付為御座衣義令不枚ニ
四日武蔵庄右衛門ニ　御付
同十日伊勢四日市ノ御代官酒合助右衛門於彦坂伯耆守宅御役
ニ　右之閉門ニ　御付
同廿九日御勘定組民東京勘兵衛能勢武左衛門役ニ　右之
六月十日田中大隅守組山本忠右衛門役去年二条在番中不
仮之事ニ有之今度ハ忠達　之聞牧野遠江守ニ御訊
六月廿六日西ノ丸大ノ御橋ノ内ニ　柳沢四兵衛守橋源右丈喧嘩

毎人共ニ被当死毎人大御番ニ　唯番ノ事之
同廿七日西ノ御丸足煙民田村右左衛門永井作右左衛門毎人以追
放ニ　御付罪之仮不知
七月六日之総守様当月三日御逝去ノ由今日派遣同情守
方ヨリ以須進為見授腰絹久左衛門ニ　御付
十一月二日本庄次郎左衛門三千石御加増ニ不都合不平不之
同十二日福井伊左衛門三宅鴻ニ流罪ニ　御付日ハ之行紀
要安仮達　之聞故之
天和四甲子年二月廿七日貞享ト改元

三月四日兼松源左衛門奥津左衛門西尾十左衛門俄五年以前
彼府立番之時為歴英保ニ行至西御城中ニ入事ニ成之儀
至三ヶ御改易ニ 御付ニ 右両者今日ニ 御出ニ加
奉行梶山加右衛門先年御改易今日以赦免之由ニ 御出
皷打新九郎父子先年以改易今日御免
五月十三日奥津久七俄去ル小去一人連父内祀事立退大坂
隠居有之由ニ于ニ今有之ニ付御當地ニ 右以食義之
元利橙三郎ヘ以訴ヲ
七月十二日去ル以追放御赦免ニ 右反ニ兼松源左衛門奥津

左衛門西尾十左衛門新規ニ三百俵宛ニ不梶山加右衛門ニ七十俵不
同廿二日去方伊賀守俄柳原虎之助ニ御訴同内通俄八丈
鴻ニ毛林助之悪茂雲作渡守ニ以訴ニ河合号書安部長務
両人切腹ニ 御付ニ而両人ニ伊賀守家老之安部俄右衛門
同辰之助切腹ニ 御付ニ是両人ハ長務子之
八月朔日先月廿二日去方伊賀守御訴ニ 御付ニ付有馬伊与守
隠地ニ 右之有馬中務大輔ニ以訴ニ 御付
廿八日今朝於殿中堀田筑後守ト稲葉石見守打果
廿九日今四時大御書大岳伊衛門宅ニ相書小鴻源義行

石波座付モ伊左衛門ヲ切殺訴ニ伊左衛門ヲ才忠兵衛方ヲ音ヲ
嘗付ニ御座ニ出合切掬源手負ニ至リ右田忠左衛門ヲ右衛門ヘ
見舞ニ御座ニ出居下ニ右ニ仕合及是出合源蔵ト切掬
手負ニ至ニ源ニ源蔵牛込御門ニ退訴ニ右ノ御門番出合
留垂根子尋源蔵父助左衛門方ヘ申出助左衛門ヲ人来源蔵ヲ
門取ニ至日中死去ニ右衛門ハ二ツ夜八ツ時死去
十月二日大御番組ニ川田吉兵衛仮去八月廿九日ニ小鳴源蔵
喧嘩ニ付御食仮ニ内是ニ御源波ヲ以ニ
十月七日小鳴助左衛門義左ニ急ニ波ニ死去ニ合ニ　御付

十一月六日御小性永井相模ヲ永井伊賀ヲ以ニ御訴
同七日於評定所ニ松平修理仮御食仮ニ保科肥後ヲ以ニ訴
同九日御令奉行戸田義兵衛新出番清水三郎右衛門
御食義内以ニ訴ニ　御付
同十四日小鳴助左衛門同伊兵衛二男源八八安鳴ヘ流罪三男
源四郎四男弓居ニ右衛門五男小鳴市ニ悪三宅鳴ヲ流罪
ニ　御付青山虎ニ助斬罪ニ　御付伴伊平水野隼人正ニ
御訴嫡子孫三郎二男平助松平越中ヲ御訴ヲ川田
吉兵衛仮去ニ松平伊与ヲ以ニ訴ニ小鳴助左衛門以書

中越御詮議ノ上ニ申宥キ御付此訳此赦免同茲嫡子無之
同一学無人也此訳此免ニ従戸田義兵衛清行三郎右衛
無人義も今度青山虎之助此詮義ニ付此訳ノ処此赦免ニ従
同廿三日仁科源右衛義閑門ニ 御付山本九兵衛小普請人
ニ 御付無人御小納戸ニ
十二月七日金森帯刀父子三人戸田宗女ニ此訳伊奈兵右衛
義父子三人内茂左衛ニ此訳是ハ去年彼府在番ノ義相番
沼頼孫三郎方ニ中野勤右衛門ニ不ニ果シ状彼状謀出之無人
ノ乱沙汰有之ニ付之

十八日昨十七日紀葉山御 社条ノ義桑田和泉当来ノ膳ニ
御目見仕右衛ニ 思召御役義ニ 右敬ニ之閑門ニ 御付
廿四日渡ノ偽四郎日来此奉公相勤抱恩愛達 上野此右
筆役ニ 右敬閑門ニ 御付
貞享二乙丑年二月十日金森帯刀俊戸田宗女宅ニテ切獲ニ 御付
右之嫡子平左衛門二男長兵衛三男長兵衛右敬門ニ不切獲ニ
御付是ハ去彼河在番之義相番之内沼頼孫三郎方ニ中野
勤右衛門ニ不ニ果シ状ツクリ此状右之帯刀謀書之此義去冬ノ
御詮義之不ニ帯刀謀出無紛違 上野右之通ニ 御付也

伊東長右衛門 并 嫡子 長右衛門 二男 氏三人 内 茂左京亮 永ノ
御記 是ハ常刀 渫書 ニ付 誤有之ニ付 右之通 ニ 御付之
同十四日 於評定 不荒川出羽 并 嫡子 同右 迁 二男 左門 右
三人 承羽 若狭守 ニ 御記 三男 荒川 長四郎 四男 一笑 吉之 亟
五男 荒川 新九郎 右五人 小笠原 修理 左吏 ニ 御記 出羽 組ノ
与 氏 稲垣 教 ニ 令森 常刀 渫書 イタシ 申 義 不申 之 御詮
義之 之 ニ 掲 ニ 付 右之通 ニ 御付之
三月十九日 奥女中 山崎 不届ノ 後有之 御追放 ニ 御付
右之 姪二人 奥 ニ 御奉公 是も 御追放 右之 養子 山崎 大助

御追放 是ハ 只今 之 小普請 ニ 酒井 能光 ニ 組之
月桂寺 ニ 入 迁 番 不 三月廿八日 横田 高右衛門 ニ 同 今日 番 後 為 夫 迁
之 武蔵 孫 之 迁 横田 高右衛門 ニ 女人 ノ 迁 番 持之 夫 迁 ノ 番 不 有 訓 不 知
廿四日 於御 番 不 御 求 詰 迁 小 中 人 組 与 ニ 横 左衛門 組 小 宮山
三郎 ニ 御 鉄 乱 氣 同 茲 ニ 夜 之 内 宿 ニ 酒 久
四月二日 御 勅定 坂部 三左衛門 并 是 八 三郎 共 御 詮 義 之 内
九 是 大 陽 守 ニ 御記 廿二日 市 是 理 左衛門 義 若 城 伊 与 守 ニ
御記 ヶ 吉川 源 蔵 後 立 花 主 脇 正 ニ 御記 ヶ
六月 五日 為 根 平 ニ 御 詮 義 之 内 山 内 大 脇 ハ 御記 ニ 不 知
同月廿六日 坂部 三左衛門 切 腹 ニ 御付 是 ハ 御 勅定 ニ

禁中御普請ニ付 去年京都ニ於テ老當年御府不ニ在京
中私曲有ニ由左ニ 三閑及度ニ御詮義ニ上巻子八三郎
切腹ニ 御付御代官吉川源蔵 私曲有ニ付 八丈御ニ
流罪同半助同百人同三左衛門追放御代官市岡理左衛門
右源蔵ト同様私曲有ニ付 三宅御ニ流罪ニ 御付長子
理兵衛実子瀬兵衛追放芦浦ノ観音寺御代官役ニ 石上
閑門ニ 御付当雅尾四郎右衛門 同断為根平兵衛後先月ヶ
及救度御詮議不ニ私曲ニ相窺ニ付首ニ 御付 嫡子
右京九ツ二男内祀六ツ切腹ニ 御付平兵衛家来伊茂

源一右衛門 樹門 源一右衛門子二人ノ内久ニ而ハ大岡源右衛門家来
也何も死罪ニ 御付
七月廿四日秋山修理御役ニ 石放閑門ニ 御付同日浅草
観音別当知楽院閑門ニ 御付ニ意遠ハ近内角田川
御殿ヘ下ニ為 成御滅法有ニ付 知楽院知行不角田川
遠ニ在ニ物御成ニ時分出ニ為ハ母ト代官并ニ代拝物
余程数又ハ物ニ多搦私ニ案也他所ヘ漕行為可控先
不ニテ不控ニ而被達 三宅知楽院閑門并代官ノ代宅御
ニ 御付由

貞享五丙寅年正月三日御城御蔵所ニ而大草源六村ニ見左衛
ト云ハ蔵所人ハ云 江戸トテ左衛源六ヲ殺ス
左衛後院ニ為致自害ニ至ル者合人ニ服ヲ押ル列
揚屋ニ云也
三月朔日紅葉山 御宮坊ニ道入後ハ治義ニ内戸田
右近ニ以飯ニ由
廿九日春日左右史弱井半太郎為人閉門ニ 御付
至三月十六日御宮守坊ニ云野道入ヲ云ニ曲事有ニ久ニ
ハ治義料相極大鳴ニ流罪同子二人松平丹波ニ以飯ニ入

同役彼田閑哲ハ彼ハ加増ニ云 石之閉門ニ 御付
十八日御城坊ニ十三人御追放ニ由
廿八日桐間御番永井ニ殿俄ニ八丈鳴ニ遠鳴ニ 御付
四月三日於二ノ丸御宗門方御祭ニ成
羽衣 紀伊中納言殿 林右馬 九帝 次帝 左吉 新右馬 六帝 左馬
江口 尾張中納言殿 橙七 三右帝 新九帝 一帝 左馬
龍田 紀伊中納言殿 源七 九帝 次帝 又次帝 橙九帝 左吉 左馬
杜若 尾張中納言殿 橙七 一帝 左馬 又次帝 新右馬 六帝 左馬
松平加賀守 櫻川 六帝 次帝 市帝 左馬 清六帝 六帝 左馬
甲府宰相殿 春日弱神 新左馬 市帝 左馬 清六帝 左吉 六帝 左馬
水戸宰相殿 海士 六帝 次帝 三右帝 新九帝 六帝 左馬 市右馬
水戸小将殿 小姫治 源七 三右帝 橙九帝 六帝 左馬 左吉 新
六月廿七日御表ニ云為成 入御ニ云御祭地大名前諸物ニ

読書所弾見ゟ　御付
高砂　鼓師藤原ゟ　頼政　日人　御カンタン　御松兵蔵
横川　飛鳥藤原ゟ　ウタウ　[illegible]　御樫ゟ　相云来廣
福神　ホン山
七月六日御先手ゟ鉄砲所平野九左衛門俄ゟ役不相應ゟ
思召ゟ　ゟ役御赦免ゟ　御付
十月七日大御番組所鴻池左衛門俄去大坂在番ニ不俄有ゟ
ゟ御給義ゟ内ゟ弱広物ゟ此所同廿八日御役ゟ　吉放閉門
ゟ　御

十二月廿六日荒川出羽ゟ稲垣数馬西人千俵ゟ此切米ゟ不
足ハ先年ゟ此所ゟ　御付処歳五月　厳有院様ゟ法事ゟ
ゟ赦免ゟ　御付今度ゟ切米ゟ不之ハ此外二人宛前ゟ不性ゟ
此所ゟ流三百俵ゟ不

貞享四丁卯

堀田下総ゟ元日ゟ出仕御留三日無皮并出仕ゟ電二月四日
俄ゟ居屋敷明ケ花ゟ山様ゟ　御付
二月三日御小納戸松平理兵衛俄一柳出作ゟ此所加賀御在
在黒木多肥後ゟ此所料ノ不ゟ知同日天野右衛門左吏義八大鴻

流罪ニ 御付同人子五人鳥居左京ニ此訳同人孫中川勤藏
御訳ケ
三月三日此解生訳此悪并魚鳥貝訳御生壹買無用之
御書付出ル
五月与社奉行坂本内記本与法諸与此訳ニ 百敦
六月廿五日桐ノ間御番梶金平松平伊豆与ニ此訳
七月十六日当切加芸藩去夜伊与与ニ此訳嫡子彰右衛門山田大猪ニ
此訳同行内三郎芸藩六日居ノ和ニ此訳嫡子平左衛門戸沢能光与ニ
此訳是モ当切加芸藩ト一度ニ論不見分相改之是モ法令ニ

八月ニ流罪嫡子三四郎秋月去流与ニ此訳之
九月十日此勘定所大是御帯与長坂伯耆与仙石和泉与ニ上
三人此役後相勤形石宜ニ 思召役義ニ 百敦
九月廿二日御納戸組所榊原能太夫同組ノ荒ノ内大谷市右衛門
ニ野孫ニ芸藩松原九右衛門無四人閉門ニ 御付是ハ当十六
ニ新御遠ニ御呉後指上ル処ニ御中小袖ニ血付委細此後義ニ
ニ不意成儀ニ仕之ル由ニ右ニ通ニ 御付当月安後御中郎ニ
此訳ニ 御付 御徒目付山本弥三郎ニ安人打首ニ 御付
是モ当月朔日横町一丁目ニ稲垣安藤与中間鳩ヲ踏殺

此身為此證義右両人ノ志ニ也不ニ證義疑發仕報有之事也
故　御付
廿三日御惡ニ奉行山田七兵衛守屋傳右衛門両人閉門ニ　御付
此後後仕敬不宜達　之聞
十月十四日那須臺江守養子与市此訴ニ　御付与市実父
津惟越中守閉門ニ　御付是ハ臺江守存生ノ義妾ノ子有
之不ニ干ニ沙汰無ク越中守子也養子ニ被當春臺江守死去
七月家督与市ニ　御付報夫今度実子ニ無紛之限妾子
御公儀ニ申出此證義之ニ右之通ニ　御付

十二月九日田中孫十郎川野權右衛門御役後相勤根宜ニ
右ニ此後ニ　古敬阿那賀後守宅ニ　御渡両人ハ此間付之
十月廿四日松平越後守後七ヶ年以前家中騒動ニ付　松平
隠後守ニ御訴ノ処今日此敬免ニ　御三百俵ニ下越前家
大名前内　古ニ　御渡之
貞享五戊辰年　九月晦日元祿ト改元
十一月十二日此小納戸戸田令御常後松平伊豆守ニ御訴此料ノ
不知
三月廿日御代支大久保平兵衛此後ニ　古敬閉門ニ　御付

同十日御側荒林 伝濃守御留守居 佐野伊豆守以後御免
六月廿七日若狭弥兵衛 後小笠原伝中守ニ御鉄山鷹喜左衛
本村出羽守ニ御鉄山女人ニ 小十人組佐々木喜左衛 組之
八月四日大屋自杭組御徒中谷茂右衛 西丸早山三右衛
切腹大喧嘩之
八月十四日御鷹道小栗市郎右衛 同田市右衛 同喜九郎
同戈兵衛 此三人ハ市郎右衛 其之以後義之内宰舎ニ
佐々十三日以小納戸富田大学後松平伊与守ニ以鉄悴義
朝比奈勤右衛 ニ以鉄御咎ノ之ニ不知

十月廿六日御小性組三枝喜兵衛 八丈鳴ニ流罪ニ 佐々
是ハ去ル以桐ノ間以番ニ 佐々有之以対 番頭ニ以桐ノ
間御番ノ後石洞法ニ 一桐勤石孫ニ 佐々 佐々 一枝
自滅旨中ニ対 千ニ限左ニ 三閑右ニ通ニ 佐々
元録二巳巳年正月十六日御名十右衛 遍塞ニ 佐々
正月晦日南部遠四郎御後御免 面数以取一ヶ本庄ニ
磐地ニ不下永井三波守 同名ニ 閉門ニ 佐々 不ニ以百仕安ヲ
切殺千ニ首尾石宜其逐達 三ヶ以鉄ニ 佐々
国 正月二日瀬名十右衛 後先月十一日ノ遍塞ニ 佐々

今日樣木監物ニ以繼義之内以銃ヲ嬌子ニ於門ヲ十次郎 後
本堂源四郎ニ以銃ヲ 御付御小性組番所内安藤後ヲ
御役ヲ 百敢世外御令奉行七人以桟木奉行二人石
奉行二人以循所二人小組奉行二人以組所二人以役ヲ
百敢
同四日朝岡繼殿子忠七郎以追敢ヲ 御付是ハ先月廿四日
夜義云衛不ニ長ヲ繼殿父子行不知子細繼殿義云衛ヲ
切出ヲ義云衛取ルトテ人員和愛ニ義云衛同人新云衛
如同繼殿ヲ切殺和処ヲ繼殿子忠七郎新云衛ヲ切出候
達 上ヲ以繼義之ニ右之通ヲ 御付ヲ番組ハ不知長ヲ義亲
ヲ 忻罪ヲ 御付
廿一日大休改役中根主税八丈鳴ニ左衛門ヲ 御付以聲ノ不知
二月二日長ヲ自ヲ若狭ヲ後松平越中ヲ以銃大名深加賀ヲ於
宅ヲ 御付同三日若年寄稲垣安藝ヲ以役以免
同晦日 紅葉山 御宮坊主河津雲歌 青井ヲ休ヲ人八丈鳴
左衛門ヲ 御付雲歌子二人ヲ休子三人浅草福壽院追放
三月廿二日松平伊賀ヲ歌ヲ龍潭ヲ以役以免
四月十二日於 以蜀前 出食次郎ト木村宮左衛門ヲ東十左衛門

當死行方不知
七月朔日甲府様御家人稲葉内匠小澤喜三郎 喜八
切腹之 御目付石原清左衛門 御家老二人御預り 内藤戸田伊
勢守宅ニ而
七月四日小普請奉行 増田喜三郎 山角権兵衛 御先手 溝口
筑後三人 逼塞被 御目付 喜左衛門 子弐人 西尾隠岐守ニ御預
権兵衛子三人中川伊豆守ニ御預 筑後守妻子 御追放
御目付 御側衆 大久保伊豆守 被仰付 右放閉門 御目付 屋
之 右上 布施淡路守ニ御預 御役不足 知足院 御蓄 清

之儀ニ而集 ニ付 未有之 之
廿六日戸田伊勢守事 先達勤 不宜 御閉門 山田 今日
阿部豊後守於宅 逼塞仕 御 被仰付 御渡
八月四日戸田伊勢守 御役御免
八月三日山内大膳亮 伏國 死去 須和三万石 右上
相続二千石 不 御目付
十日鳥居 之 子 城地 右上 三九
御役 由田 竹中 宗
御追放 右放 閉門 御目付

九月十六日忌祝小原鄕孫平宮崎田平田尾崎右衛門
野村喜左衛門世六人遠行候 御付

元祿三庚午年正月廿一日猿楽町水野伊豆守屋敷前ニ而松平
英濃守ト右川九郎兵衛ト喧嘩イタス九郎兵衛当死英濃守
手負同廿六日喧嘩之趣松平英濃守御役義ニ拝下九郎
兵衛ニ氣ニ無紛ニ付英濃守御役何之御構無之ニ而被仕本
服以来元御役ニ相勤有之 御付九郎兵衛御礼氣前ノ悴
鉄之助有之ニ而九郎兵衛御義ニ不レ無申
二月廿一日三宅種左衛門閉門 御付桐ノ間御番之

三月廿六日柳沢出羽守二万石御加増都合三万貳千石之
四月十四日御小性組山名伝濃守柳沢出羽守御親戚至恩ニ付
廿日大公深御寝守牧野伊豆守三宅藤兵衛三千石十人閉門御赦免
之由當十二日御目見至恩并遍塞ノ方大勝御赦免之由
六月四日尾張中納言殿紀伊中納言殿大御西丸ニ而任大納言ニ
廿九日御小納戸宮崎田中兵衛御役義ニ内揚度ニ而悴中九郎
義親戚之内ニ而御忌越之親戚軍小男至鳴
八月廿八日御外料坂本喜左衛門御役義ニ而遍塞
ニ 御付

九月十八日桐ノ間流去谷川長壽寺森川自水天方自高大
忌高橋松平名壽柳原茂壽加茂左門洲七人出書清ニ依
十月朔日奥列出去右衛門左衛門ノ物来去月廿二日ニ白附ニ去ル不調法ニ
依奥陸守度家老ニ能登中ニ日光山門ニ以曉ニ為ニ欲ニ申来ル
十月十日御浜施御草司青木新蔵右衛門組同心青木新壽蔵
依稲田去四日ノ宰舎并徒黨ニ同心六人町奉行甲斐守
龍渾守於宅十八人ニ者死罪ニ申渡ニ御遊楽御追放ニ
御付新壽蔵死罪ニ 御付ニ右ニ追放成ニ之子勢同ニ
新壽子伝同ニ遠嶋ニ 御付四ヶ男子十五ヶ追勢ニ以ニ
ニ由龍渾守ニ申渡右同心ニ御草司奉行小林桂之丈

青柳新蔵右衛門玉出右衛門壽蔵ニ出ル
元祿四年未年三月五日伊茂源左衛門以證義ノ了有ニ千両金
七ニ遠ニ御頭ニ 御付
同廿八日中嶋助六郎 山切米ニ 右ニ以ニ持方十人ニ申
助六郎御小性ニ
四月十二日牛込右左衛門閉門ニ 御付
五月大谷深玄蕃頭ニ反ノ旦状日蓮宗ニ内不更不施流兼ル
以割禁ニ而ニ小湊誕生寺碑文谷ノ法花寺谷中感應寺
悲田宗ト号不更不施ニ邪義ニ相立ニ付今度悲田宗

堅縁山ニ 御付宗旨相改ル向後悲田宗ニ中宗不更
ニ施ニ成ル又ニ他宗ニ成ル心御身改下ル右ニ通リ御
志中ニ御渡
九月廿四日余語守三品野良家五人ハ追放ニ 御付由
元祿四壬巳年四月十八日今度 嚴有院様御法事 二付
先年ハ諸ニ流或ニ閉門遍塞ノ流ノ門ハ赦免ニ遣ル門ニ
御赦免ニ流ニ 御付新ニ召ニ出ル赦免古流並ニ 御付
七月廿八日須元蓮ニ松平不鍋ニ家中二ツ割ニ種ニ出ル永ニ
以後義有ニ黒田数馬 此五人ノ家ニ屋ニ遣ル 御付不鍋
縁ニ知行十四万石ヲ四万石ニ 百二十万石ニ成ル二月ニ 百二
閉門ニ 御付知行ニ示ス追ラ下ニ 御付由
元祿六癸酉年六月十三日本多出雲ニ以ル 御付
三月八日公儀ヨリ以尋ニ古田左衛門義堂伊勢門ニ被ニ自殺
同十一日廻状先日ニ 御出ル以尋者古田左衛門義於高下
被自殺鈴木長三郎出ル弥御尋ニ旨ニ 御出
元祿七甲戌年二月十四日於桃奥以座敷中庸ニ御講釈
仲足ノ君子中庸ト云ヨリ君子ノ中庸ナリ君子而ト云迄
ニ 拠四半時始ル 流大名流役人窺ニ出仕

御書付写

先頼御愛之儀前之義ニ御出ニ御出ニ御見ニ御祢イ
タワリ下ニ有自然大加之合ニ御良ハ底付ニ御柳ニ御分ケ下ニ御
御成先ニ道前ニ而モ押へ之前ヘ即ニ達水ニ御ケ掛ケワケ下ニ御
右之通御老中ニ御渡ニ御寄ニ得ニ其ニ組同心ニ御ニ御渡ニ

戌三月二日

山岡当居
彦坂三波当

小林橋支度
青柳新太三度
西出左ニ手傳度
中山長ニ手衛度
御渡ニ御草ニ司ニ御ニ

浪人

籠葉茶屋門

此者依去年茶中馬ニ中曲虚説中出シ共上ニ大やり於ニ御
札英葉之法組ニ作リ実ニ事出付流布致重之右衛
門江戸川ニ引渡斬罪ニ中付ニ御之

戌三月日

右之通今度ニ仕置之成ニ何義為ニ得相解ニ御ニ相見ニ上

三月十三日

小林橋支度
西出左ニ手傳度
青柳新太三度
中山長ニ手衛度

小倉安房守

四月十一日夜大御番森川紀伊守組多田三十郎儀浅草大番酒井因幡守組ニ而

殿ゟ右之通書院番森川紀伊守組柳沢八郎右衛門至急ニ致参廿二日於殿

同廿三日多田三十郎死骸於浅草ニ行暮候　御目付長坂

四郎小納戸組之儀　戸之遍塞候　御目付松平太郎左衛門組

与力隠居伊藤兵左衛門稲葉右京組与力桜井権左衛門　松平

左京大夫家来氣田兵八郎并三人　御預ケ之内山下御庭ニ而

三十郎同類之村越伊予守組菊松又左衛門　御預ケ之内　松浦

越中守ニ而去ル十一日三十郎出宅之儀ニ候

同月廿四日林大学頭儀溝口為離下山甚右衛門宅　被剃

堀田相模守殿御渡候御書付

今日寺社奉行町奉行御勘定奉行御役中ニ而御渡有之候

節々今まで被成候而其候　御出役之節ハ　左様無之

其外右之有之候之事ニ而向後ハ其外御出役之節

役職之並御役等被仰付一町ニ而為致度候　御渡之節

通番人之内隠居於席於相番中ニ而為致度候旨相達候

之内町奉行之節相願候之　御渡之節上

戌

五月廿二日

五月十日今日桂村加紀永井加紀渡辺主水木下四郎

三百俵ニ付 小田切 [illegible] 行用 三郎 [illegible] 五郎 [illegible]
或百俵宛ニ付 [illegible] 百石俵ニ付 右何も先年以来
又ハ [illegible] 百姓以前之 [illegible] 小林 [illegible] 二人も
死去之由 小山 [illegible] 以来 [illegible] 永井 [illegible]
九月廿六日 今日米会 [illegible] 并 [illegible] 斬罪 [illegible] 伊豆
是ハ [illegible] 謀判 以切米 [illegible] 百俵 [illegible]
以後 [illegible] 伊豆 [illegible] 二月 [illegible]
[illegible] 伊豆 [illegible] 自害 [illegible] 別 [illegible] 石ニ付
又 伊豆 [illegible]

十一月廿三日 小林 [illegible] 俵 [illegible] 中根 [illegible] 以 [illegible] 小林
三郎 [illegible] 同廿六日 三郎 [illegible] 宋 [illegible]
閉門 [illegible] 伊豆 是ハ 三郎 [illegible] 小林 [illegible] 三郎 [illegible]
俵 [illegible] 者 [illegible] 三郎 [illegible] 三郎 [illegible]
三郎 [illegible] 右 [illegible] 三郎 [illegible]
[illegible] 小林 [illegible] 中根 [illegible] 以 [illegible]
以 [illegible] 伊豆
十二月廿九日 [illegible] 斬罪 [illegible] 伊豆 松平 [illegible]
伊豆 [illegible] 稲葉 [illegible] 松平 [illegible]

家来亀田弄八郎此三人切腹ニ　御付甲府殿以家中
横山才同六郎変後欠落後ス不以御義強ニより死出自害ス
其死骸斬罪ニ　御付右之者宮田三十郎同様之
元禄八乙亥年三月廿二日本多能渾守後松平長政守ニ以訴
養子主斗後東極弄内ニ以訴是ハ家中騎動家老二三
人立退ニ付以御義之上世代ニ　御付主斗実兄本多平十良
堂鴻ニ　御付
同日中人組織湯五郎左衛門組川井偽六郎御政男世男平
野左衛門切腹是ハ御代変八木仁衛門ニ代之牌毎人左鴻

ニ　御付
八月九日大御番三枝能中之守組河村長左衛門ハ松平陸奥守
家来浅井隼人聟之甚左衛門百仕ノ女年季二三年以前
明ル依之男隼人方ニ而彼女毎五橋ノ近不識ニ若衛門
縁付ル一ニ左衛門若云来不入行幸眼不出女ヲ彼婚姻不庵
彼離別ニ而有之中ニ以後右之近以使者之中書ニ左之女房
於離別ニ彼若衛門ニ悪ク不有之旨恐若衛門住宅之
前ニ此碑文切ニ有依之若云来彼迷惑女房本ニ清人是ヲ
少ニ沢ニ而無之ニ而又若衛門ニ而ニ若衛門ノ若衛門ヲ殺ス

相徳ノ桐ノ間ニ於テ通ニ平穏ニ至ル所ニ捨テ置ル葉桐ノ間ニ乱
城ニ砌落火ヲヒロイ直御城ニ持来達　三ツ夫ニ於センサリ
ノ所ニ右ニ来ニ皆ニ至ル後ニ云分於大塚東朝罷ニ　仰付之
十一月十四日大坂町奉行加茂大和守於大坂公事載北後有ニ
由達　三ツ大和守ニ在下ニ此後ニ此後ニ所ニ北後ニ所ニ云分ニ付
今日内茂紀伊守ニ此ニ大和守同人一人与一人成敗ニ　仰付
十二月十三日日根野十次御改易ニ　仰付是ニ小田去年御府
在番ニ在仕ノ若輩一人ニ付ニ後ニ至日中間二人後自害
一人ニ落後ニ所ニ此後ニ所ニ行ニ不宜ニ付ニ　仰付

元禄九丙子年正月元日九時市ヶ谷御門内小笠原長三郎門ヲ
尾張殿家来松井半左衛門神谷源蔵堀田三郎云儀三人
同居ニ通向ノ徒ノ者ト相見ヘ一人来彼者ニ至ル行ヲ接
右三人ニ切て至ル源蔵半左衛門接合戦下ニ三郎云儀源蔵
半左衛門後ニ出リ両人ニ敷ニ切前ノ者ヲ両人ニ付留ニ至ル
三郎云儀在仕ノ連何方ヘカ立退ル右両人源ニ尾張ニ至ル
入源蔵押付死半左衛門ハ三日迄再生ニ在ル源ニ至ル
旨長三郎三日ニ夕方尾法殿ニ尾張死人渡ス
正月廿九日高力伊与守組大長ニ在ル伊与守宅ヘ見舞

庭蔵ニ而對面致し候時伊与吉ヲ切殺刎ニ相成候ヲ伊与吉
家来之付届ニ茂不及候とも不知　伊与吉ハ元書院番頭之
同十日今度高力伊与吉ヲ大成候而切殺候番頭ニ對シ
不届成致方ニ付　思召ニ而子共儀首ヲ免被下ニ　御付候由
右之儀ニ付　近親類閉門ニ付　御付座敷ニ而差控被下候
右月廿四日戸田能登別遠塞御免
六月十三日中野ニ有之大ノ抹将今度江戸町中ニ而申渡
七月初ニ高巌ニ而御役被仰付　右於遠塞ニ付　御付

覚

一知行取候者ハ知行所ニ而其後ハ無之ニ付無之候へ
養育可申付事
一居屋敷ニ候者ハ其屋敷ニ而其後者ハ是又掛り入用ニ
其上入用可申事
一小路之内ニ候者ハ其町中ニ而其後者ハ支配方ニ而
相届可申事

以上

子　七月

八月廿日右御触大目付より御触ニ付　御付ニ而覚

高砂　桜平依頼左史　葵上　細川越中守　三輪　桜平伊安守
春日　毛利甲斐守　小鍛冶　桜平安藝守　六浦　藤雲作淡守
右之前中於　御前之後

覺

一酒ニ碎人ニ取ル不届仕ニ去粗有之ニ而兼ニ大酒仕ニ成ル候ニ
ハ得ニ強ル酒給ニ後人ニ相憶可申事
一宮来ニ有之ニ而ハ酒強ニ成ル無用之事　附酒粗之者も
有之ニ而ハ酒為給ニ者も不為越度事
一酒高賣仕ニ去連之減ニ相ニ仕ニ右之通兼度ニ相守

於今遠省ニ為曲事者之
子八月

口上之覺

想ニ酒給ニ成ハ　上ニ此ニ娘ニ成ニ後ニ而ニ憶ニ相ニ違之
ニ相違ニ但支配有之方ハ夫之憶ニ相ニ不申ニ後ニ以上
元祿九年子八月十八日　中根大隅守

小林檀左史殿
西虫左兵衛殿
下山宗兵衛殿
小鴨孫七殿

八月廿一日阪田次郎右衛門左衛門ニ　御付比企藤十郎ニ以上被

御付

元祿十丁丑年壬二月二日山王之神主日吉大膳方ニ為鳥伊織大喧嘩被ス

九月廿二日長崎奉行御訪下總守御役ニ　右放閑門ニ　御付

是ハ於長崎下總守用人唐賣私乃為隱買之後日發軌

吏右之通ニ　御付由

四月四日晩御留主居番作之喜三郎ト同役秋山十兵衛ト喧嘩

十兵衛宅ニ喜三郎行打果意ハ不知喜三郎出立有由

貞享三丙寅年九月二日大小神祇組ニ　右捕御仕立書付

野之山基左吏　浪人　西鶴見平蔵　宰人　山岳源八　浪人　西宮八左衛門

浪人　八郎　浪人　三輪半左衛門　浪人　淺井昌成　浪人　大山源二郎

右捨主人於宰屋所罪ニ　御付

西宮八郎左衛門子三人　武三人　大鳴ニ左衛門主人奥山茂十郎組ニ

志賀仁右衛門子主人　知少夜十七近親ニ　此ニ西鶴見平蔵子

主人　主人ハ他国ニ在之ニ而為ニ来ル者ニ　主人ハ知少夜親ニ　此ニ

野之山基左吏子主人右之子ニ大鳴ニ流罪ニ　御付是ハ去

廿六日松浦右衛門同廿七日之晩動解由先ニ来ル与方同人請之

於寺戦所罪ニ　御付

寛文九己酉年七月廿二日ニ松前八左衛門白老ニ而作蝦夷数迄

退治之處同十月廿三日落着之

蝦夷討取生捕覚

一 志やくしやいん　但志やくしやいん弟　六月廿三日ニ大将蝦夷討取申候

一 松前人け　但志やくしやいん子

一 ちめんた　但蝦夷志やくしやいん上下之蝦夷かり申候 但志やくしやいん子

一 うゑんさし　但志やくしやいん弟 志やくしやいん同様仕候蝦夷かり申候

ひわさと申所ニ而十月廿三日右十六人之内六人討捕武人生捕

一 まり以日子武人 武五人ハさつまと申所ニ而蝦夷刎ニ而十月廿三日

一 子二人親共ニ六人

一 けつたいん

一 弐志やる　但うら川 日親共ニ六人

一 酒の兵　但三石 日親共六人討捕

生捕之同親共武人外ニ

一 松二いん　但あつま

一 やり河　但あつ

一 うしま　但しらおい

一 西のえ　但よいち

一 ちいこうん　但松前

一 うろべ　但西

一 ゑてまる　但ミやり

右十六村之頭七人此者共子共七人親共ニ拾六人蝦夷数合廿六之

はつ川まと申所ニ而十月廿三日生捕

十月廿四日夜之時分志やくしやいん宅ゟ押寄白仕蝦夷八人

討取家焼払申候　右生捕討取蝦夷数五拾五人

天和元辛酉年越後波居時松平越後守家来小栗美作

藤田主馬永見大蔵洲三人大廣間ニ於　石丸於
御前對決ニ於　御身ニ御座殿ニ居并御三家方御家門
方諸大名出席居別在り
越前守家来御仕置ニ於　御身ニ於　上使
甲府殿ニ紀伊殿ニ　石川兵部守　尾張殿ニ水戸殿ニ　松平周幡守
六月十九日出役出発酒井下総守松平内通氏安茂ニ於守
牧野掃津守鴻田越中守中西号書　阿部忠右衛門川田十六左衛門
勝屋基右衛門　貞勝部一学　小林伝次衛門
六月十八日ニ晩御免本多對馬守小宮山左九郎

六月廿二日小栗大六右切腹検使長坂ニ於守戸田八郎ニ於
小栗兵部右切腹検使坂本右衛門作宮城主殿出屋市ニ出
大鳴ニ流罪小栗云庫同十蔵安茂活左衛門
五人追放越前越後関八州出擒安茂平六流貞久云衛門
野本右近林内蔵助小栗右衛門
八丈鳴ニ流罪永見大蔵藤田主馬三宅嶋ニ流罪是鳴
三夜本多七左衛門伊東出雲守出役流刀九十郎稲葉右京ニ
出役行山和祀水谷左京ニ出役中根七左衛門　湖川三役守殿　兵部稲葉兄
大鳴ニ流罪　一麦坊

六月廿七日一在戸法大名法書院拘所前法役人前也
城御在中列座ニ而松平越後ニ御訊之旨　三三之迄
稲葉ニ而濃ニ而御訊之
一越後ニ而悪ニ御旨於　御座間ニ而　御達
高田城請取　松平大蔵ニ更　柳原式部ニ更　牧野彼ニ而水野
隼人正溝口淡路ニ　糸夷川城請取ニ在番ニ堀左京亀
同所ニ松平日向ニ　秋元掃津ニ坂本右衛門ニ高木首ニ
中坊長吉郎　君御吉ニ在
一松平大和ニ　三使土屋相模ニ坂本右衛門ニ　御付

一松平三郎助ニ　三使松平伯耆ニ内藤新六郎ニ　御付
八丈嶋ニ渡船大隅ニ相ニ彈正人ニ御訊渡ニ米右衛門ニ令森
万ニ助ニ御訊渡ニ安藤ニ大笑伝濃ニ御訊平岡助ニ
大隅三男ニ由

元祿十一戊寅年
元祿十二己卯年
元祿十三庚辰年三月廿六日松平十右衛門ニ依養子之事ニ付御経義
之内先日御訊ニ　御付御愛ニ今日閉門ニ　御付鶴史
番所酒井伊勢ニ同与所林自水与人ニ遍塞ニ　御付

八月名濃殿一学死去同年十二月九日將十三歳家督ニ成　御付
勅三節ト改
元祿十四辛巳年二月十八日御仕金　八丈鴻ニ　中人組　三浦十郎兵衛
高津鴻ニ　彰山番　高木十二兵衛　彰山鴻ヘ　彰山番　高木長郎　右十二兵衛熱川　高木
遥右衛門ニ　丸鬼万ニ郎ニ　御鉄門　新次郎　長谷部熱川　同　義ニ郎　同　二男
山名彈正ヘ　御鉄ヶ　御追放　中野沢玄南十郎兵衛　養子右兵衛
者ノ子ヲ　松平大和守　屋敷中　流シ　子ト申ニ　高木十二兵衛
肝煎　三浦十兵衛方ニ　被養子ニ　被相成御仕金ニ
御付右ノ養子ハ長谷部書ノ弟ニ　玄南ハ名ノ使

三月十四日辛巳年曇時ニ日出腹ニ　歩中　打ニ臨ル　為敕答
公家流光　城ノ下　吉良上野助ニ　浅野内道ニ　於大廊下ニ
三大分切御本丸ノ御留守居番　梶川与三兵衛居合内道ニ
組留ル　ニ　続大勢打合双方ニ　別ル　内道ニ　田村右衛門ニ
御鉄大目付　庄田下総守ニ　同付　中嶋彦右衛門ニ　御鉄
三人御徐義ニ　御付　上野助ニ　宿下ニ　出御徐義有ニ
同廿六日吉良上野助西山十郎兵衛　毎人頼ニ　御役
御免ニ　御付
六月四日甲府殿深屋敷ニ出ノ　良彼此屋敷ニ　用人

建永二庚寅ヲ以月付川勝織部以服之後ヨリ横腹ヲ寛
大勢寄合双方ニ別ル織部ハ二夜切腹ニ候 御付三ヶ所ハ
翌日死ス
八月廿一日諸御役人十九人御役ニ 百放御詰不宜御達
上野ニ而以書面之内ニ大勢以外有之姓名別ニ記ス
十二月七日御役人所御役ニ 百放以書面小普請人ニ 御付
元祿十六癸未年三月九日松平兵衛守ニ或方名御加増
同日桂昌院様以位ニ進 一位ニ付為御祝儀法役人ニ 城
同廿一日御納戸元方書院御野右衛門ニ 役以役勤方不宜

達 三國以役ニ 百放宗意可仕事至旨 御付
同日旧冬ニ於御書院刀ニ取ニ小十人組伴勝御覧之義旧冬ニ
御見近以後義ニ亦ニ今日書院御遊御ニ取ニ以御書ニ内ニ
十六日辛卯天氣吉ニ来候御遊御ニ
昨十四日夜七ツ時浅野内道院家来共四十人余吉良
三野以屋敷ニ乱入三野以父子切殺首ニ出ル男女不分ク
数十人切殺由委細ハ別紙ニ記ス
元祿十六癸未年二月十日新庄左衛門ニ并組院石川監物儀今度
大公保中左衛門石織役ニ付依為于書院御役ニ

右ハ閑門ニ而　御仕置之者青柳新九郎ト　飯田藤八
ト致喧嘩致方為致死ス由二月十八日申来ル
四月廿八日塩田吉右衛門所追放ニ而　御仕置不束ニ付
相知レ右之通御仕置ニ成
六月十八日牧野内近江御役ニ而　右ハ放遠塞ニ而　御仕置同役
稲葉紀伊守殿目見出来　内近江ハ御小性組番頭之
十月十八日庚申天氣吉南風吹強ク夜九ツ時四谷伝馬
町ゟ出火ニ而近辺焼ル
同廿二日甲子天氣静晴夜晴天巳ノ下刻地震壱ツ強り

表ノ石垣崩レ鴨居落大破損出来其後数十度震
同廿三日乙巳天氣吉地震数十度数不知其内強事切ゝ之
夜曇り雨少ゝ降朝ゟ止夜半ゟ晴地震数不知
同廿四日丙午天氣吉切ゝ曇り七ツ時ゟ少ゝ雨降夜半ゟ
止昼夜地震数度震
同廿五日丁未天氣吉朝ゟ南風吹九ツ半時小風ニ成八ツ時ゟ曇り
夜ゟ晴昼夜地震廿度余震
同廿六日戊申天氣吉朝ゟ小風吹九ツ時止夜晴天昼夜ニ
地震十八九度震

同廿七日己巳ニ氣吉ニシテ求日雲夜半ニ及テ晴ニ至夜ニ
地震十八九度余震
同廿八日庚午ニ氣吉ニシテ求快天ニ至夜ニ地震十度余震
同廿九日辛未ニ氣吉南風小吹求晴南風小ニ吹地震至
夜ニ十二三度
十二月小朔日壬申ニ氣吉朝ヨリ小風吹日長ク弥吹求晴天
小風吹地震至夜ニ十度余震七時本日以下ニ出火
同二日癸酉天氣靜晴求ニ及近小風吹求快天ニシテ地震
至夜ニ八九度往震

同三日甲戌ニ氣靜晴ニシテ求快天地震至夜ニ八九度其
内夜ニ度震

元祿十七甲申年三月晦日室永ト改元
七月廿一日大沢帝 小林彦右帝 養子ニ云 御付同廿二日彦中帝ト改
八月二日以同付多門伝八帝 御普請奉行奥田八帝右ニ以下
宮海道右通ル 中嶋孫兵衛 沖田三左通ル 右ニ人小普請入云
御付以祐筆圖平八帝 岡本長通ル 関根孫左通ル 三人
御役云 右敬室恵云 御付
八月廿六日溝口右近井出茂義所罪云 御付 行小普請

本郷之町人 伊勢屋忠太郎 金平母 既ノ謀判被 備 [illegible]
[illegible] 訳 [illegible] 諸人 [illegible] 右之通 [illegible] 同罪 [illegible] 御付志
被町人 太郎 [illegible] 右近 謀判被 [illegible] 金子 [illegible] 訳
相知 [illegible] 御付者 [illegible] 昔 [illegible] 普請方 [illegible] 代十人 [illegible]
御仕 [illegible] 御付者 [illegible] 大勢有之由

宝永二乙酉年八月 [illegible] 肥田十郎 [illegible] 被 [illegible]
御付十郎 [illegible] 寺田 [illegible] 合 [illegible] 抱 [illegible] 不持 [illegible] 用人 [illegible]
[illegible] 綱 [illegible] 法 [illegible] 取 [illegible] 人 [illegible] 依 [illegible] 右之用人
御追放十郎 [illegible] 御被 [illegible] 右放 [illegible] 御付

宝永三丙戌年 六月十五日 [illegible] 用法 [illegible] 良助

四月二日 山本又十郎 [illegible] 来 [illegible] 太子 [illegible] 不 [illegible]
仕 [illegible] 有之由 [illegible] 遍塞 [illegible] 御付
八月 [illegible] 大坂 [illegible] 本 [illegible] 肥後 [illegible] 組 [illegible] 於
宮 [illegible] 乱 [illegible] 肥後 [illegible] 組 [illegible] 武 [illegible] 夜七ツ 時
[illegible] 十九日
同廿日 一昨十八日 去 [illegible] 御付 [illegible] 遍塞 [illegible]
御付
廿一日 山本又十郎 [illegible] 事 [illegible] 四月二日 [illegible] 遍塞 [illegible] 御付 [illegible]

今日御赦免ニ而 帰村
九月朔日市ヶ谷八幡町鐘撞去ル丙年ゟ彼所ゟ被仰付
発起ニ諸料知行高下ニ不寄三百銭宛之
九月廿日八幡服良院地内稲荷社前桜ノ洞ゟ水
湧出ル男女参詣之由
宝永四丁亥年十二月廿二日ノ夜九ツ時 平 裏町前場清右衛門下ニ
大変有之清右衛門妻ノ兄其年ゟ病気乱心ニ而清右衛門奥ニ
罷在候居候処手不斗起上リ刀ヲ一刀切付ル起上ル所ヲ又一太刀
斬ツ切ル処別座ニ臥ス清右衛門子七才ニ成娘須病気ニ付
清右衛門実方之兄ニ如此之内不断病気ニ付見舞為宿
病女差置一人二三日以前ゟ指越御女ト娘ノ母ニ被下候ニ付被居内ニ
居ニ右之仕合故居ノ処ゟ起出不申一寸腹ヲ切候ニ付
呼長屋ゟ見出来候方死去ニ付被成ハ清右衛門納戸ニ入
被自害致者浪人也不残右往同前ニ而清右衛門下ニ勤居候
廿二日早朝組頭両人参来テ役所ヘ申出行届ニ付入来テ
見分ニ而御曲淵清右衛門被成ニ付八月七日実之候三宅権左衛門
従者小尾七郎左衛門弐歳ノ組日津守御神下大家ニ取焼
妻子之内方觀之方ゟ取出白ニ而老母ヲ連右権左衛門下

来庭叔ノ様ヲ借リ住居ス翌ニ當月七日ノ晝権兵衛持參ニ
来看権被下ヲ渡ヨリ一太刀切リ二ニ候退リ下ヲ権兵衛
追懸候得ハ母儀ニ居候処ヲ来リ打失シ追懸打下ヲ捕捉ヲ
押候得ハ右庭ニ顛レ死ス其儀向レ候ニ付捺ヲ下ヘ飛候とテウ
ツムケニ顛レ母儀弁押ヘラル所ヘ小者壱人走来リ押ヘ権兵衛
同人ハ甚左衛門方ヨリ来リ捕ヘ一同成所ヘ押入候ニ付後親兄
流番所捕ヘ一左右被ス押付親兄流見届権兵衛番所
能勢市十郎七郎兵衛小普請組久貝因幡守ハ以権兵衛義
於旦那寺取立七郎兵衛義因幡守預ケ當十二日切腹仰付

十一月廿三日辛未曇來前ヨリ地震数度数不知五ツ半時ヨリ
平等ニ地震甚雷鳴ル九ツ時ヨリ灰降終日不止家之
地面輪手也雪霰ノ気ノ凄ノ不及筆狀此震雷平
等之灰也雪降
廿四日壬申曇晩方北風吹立四ツ時止夜曇又々晴星雲霞
天濛気多し
廿五日癸酉甚海焼快天霞也曇震動切々数不知ニ顆
依戸障子鳴夜中迄同断昼前ヨリ又灰降積ル也雪
廿六日甲戌夜曇り是ハ甚海焼候ニ付焼砂天霞也曇晴

震動数千知砂降庭之庭面ニ黒稱リ言ヘ強来同ク
廿七日乙亥天氣吉四時ニ曰雲言ヘ砂切ニ降夜曰雲又晴
砂降家之庭面ニ稱ル
廿八日丙子天氣吉言ヘ来晴天
廿九日丁丑天氣吉朝内言ヘ夜曇震動二三度砂降庭之ニ
積ル事甚
晦日戊寅曇九時ノ天氣之ル砂少シツ降夜曇黒砂降リ
庭之ニ稱ル
十二月朔日己卯曇九時天氣少シ先去言ヘ夜晴天

二日庚辰天氣快晴言ヘ来高曇砂降庭之ニ稱ル事
三日辛巳曇夜ノ黒砂降地之ニ積言ヘ九時ノ天氣吉夜半曇
四日壬午曇時ニ日出霧煙ノ如ク震庭前決難見九時ノ弥
震ニ強砂降風少吹依ニ家内砂降入来言ヘ
宝永五戊子年五月九日中人組作ニ内記事去ル七夜致逐電
親ハ其ニ御掛リ尋出ス親ハ此ニ出ル至今日未寫ス　仰付
九月廿九日仙石左門閉門ニ　仰付是ハ病ニ有ル下ニ書言
廉来ニ致仰付右ニ通ス　仰付
十月四日旦状大浅致通用ニ書有之

宝永六己丑年正月廿日大殘用ニ付之処状来ル

十日御他界廿二日　御出棺

同廿一日馬ノ首毛振ル事不可ニ成旨去年先　御代雖ニ　塗

馬ノ痛ニも不成候ニ付而向後振リ申ニも不苦ノ旨

二月十六日於上野鐵田監物ト前田宗安被喧嘩宗安監物ヲ

切殺刑自宅ニ立退押付切腹ニ　御付意ニ而知

御書院番長谷川熱三郎次男熱三郎ヲ百連ニ十二月四日ニ

四谷大久保ノ未ニ余御法度ニ誤抱ニ被殺生刑百姓一人

打殺依ニ百姓ホ大勢ニ丸巻熱三郎誤抱ヲ隠不打旨偽

辛ニ之以旗本ニ者由名字和ニヨリ百姓ホ威勢ニ出レ少立

退熱右ニ宿路ヘ勢ニ付ヲ慕宿不ニ附近刑公儀ニ消ヘ其

以後以後義ニ処打ニ無紛侍ニ不似仕歟急度罪過ニ可

ニ行不ニ其以新院様崩御ニ付以ニ慈悲皆ニ宥十二月

廿七日左ニ鴈ニ　御付悴熱三郎同罪嫡子後三郎以退放

被同ニ花房三郎右ニ鴈ニ深谷左衛右ニ武ニ人以穿鑿ノ之

同ニ先ニ立ニ行別反誤抱ニ義不存旨中ニ付ニ其人共ニ

閉門ニ　御付熱右ニ七ノ十二月二十日来不行跡如者ニ

大草尚以相馬土次郎被自分百姓ト公事合ニ付非分

高千二百石之内ニ而　右上御役儀　召放

四月廿六日於御白書院御白洲ニ而飛鳥井中納言殿難波侍従殿蹴鞠有之時諸々出町人本材木町多田新助西川岸丁藤田七左衛門本材木町壱町目伊兵衛瀬戸物丁多賀井七左衛門駿河丁藤田九郎右衛門呉服丁樽屋三左衛門京屋西市郎兵衛同喚出宗栄

宝永七庚寅年

宝永八辛卯年　四月廿五日正徳ト改元

四月廿日小普請松平伊豆守組白井主水御追放被　仰付